



# INFOS

日仏整形外科学会広報誌

アンフォ

- |  |   |  |
|--|---|--|
| ■ 名誉会長……………七川 敏次<br>Président d'honneur — K. SHITIKAWA | ■ 会長……………小林 晶<br>Président — A. KOBAYASHI             | ■ 副会長……………瀬本 喜啓<br>Vice-Président — Y. SEMOTO      |
| ■ 書記長……………大橋 弘嗣<br>Secrétaire général — H. OHASHI      | ■ 書記・会計……………弓削 至<br>Secrétaire et Trésorier — I. YUGE | 青木 清 藤原 憲太<br>K. AOKI K. FUJIWARA                  |
| ■ 幹事……………坂巻 豊教<br>Membre exécutif — T. SAKAMAKI        | 金子 和夫 安永 裕司 久保 俊一<br>K. KANEKO Y. YASUNAGA T. KUBO    | ■ 名誉会員……………小野村 敏信<br>Membre d'honneur — T. ONOMURA |

- 事務局：〒 530-0012 大阪市北区芝田 2 - 10 - 39 大阪府済生会中津病院内（係：大橋弘嗣）  
Tel. (06) 6372-0333 Fax. (06) 6372-0339  
Bureau : Maison d'édition: Saiseikai Nakatsu Hospital, Shibata, Kita-ku, Osaka 530-0012 JAPON
- 発行所：〒 530-0012 大阪市北区芝田 2 - 10 - 39 大阪府済生会中津病院（編集者：大橋弘嗣）  
Tel. (06) 6372-0333 Fax. (06) 6372-0339  
Maison d'édition: Saiseikai Nakatsu Hospital, Shibata, Kita-ku, Osaka 530-0012 JAPON (Editeur : H. OHASHI)
- ホームページアドレス：http://www.sofjo.jp



2011.3.31  
VOL. 21

## 2011年を迎えて

遅ればせながら、2011年を迎えてご挨拶を申し上げます。皆様には麗しく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年度は会員の皆様方のご協力により、大きな成果を挙げ益々発展することができ、大慶に存じます。今年もどうぞ宜しく願いいたします。

SOFJOの昨年度の行事で特記すべきことは、9月第14回SOFJO学術総会が安永裕司教授(広島大学)のお世話で盛大裡に開催されたことと、11月にはパリで第85回SOFJOTで日仏合同フォーラムが企画され、これに招待された日本側から演題を出題して大成功を収めたことです。前者については、別に安永教授が報告されると思いますので、ここでは後者についてのみ報告しておきます。

これはSOFJOT 創立以来初めての企画で、メイン・テーマは{Mouvement et Autonomie aux Patients}(運動と患者の自立)です。1年前から会長のJacques CATON教授が発案され、われわれに打診された後に正式に決定されたものでした。これに応じて大橋弘嗣先生が多忙にも拘わらず、周到な準備のもとに演題募集からプログラムの決定まで奮闘され、全国から25題もの応募があったとき、胸を撫で下ろしました。フランス側と日本側の選択で、結局11題の口演と5題のe-posterとしての出題が決定したのは、学会直前のことでした。

この間のフランス側の努力も大変なもので、失礼な言い方ですが、何時ものフランス側の遅々として進行

しない運営と手続きを想像していた私などは、今回の頻繁な細かい打ち合わせには感嘆し、こちら側はむしろ牽引されてばかりでした。いざとなると、フランス側の心の籠った接遇を含めての準備に、改めて敬意を抱いた次第でした。

お蔭様で前日の打ち合わせから、発表当日の満員の聴衆、発表、司会、討論などは文句のつけようがない程の内外の評価を受けました。また、改めて詳細は別に報告の予定ですが、フランス側の好意に報いるべく我々SOFJOも大いに、これを範として温かい交流に努力したいと感じました。

学会開催・参加とは別に、平成22年度は何時もの通りフランスへ2名の交換留学生を送り出しました。いざれ帰朝報告が頂けると期待しております。

また、故森崎直木先生(元東京女子医大名誉教授)が独自に編集された、我が国で唯一の「仏日整形外科学用語集」の改訂作業を、本会でを行っています。関係者一同は数回に亘って協議し、使い易い便利なものにするべく頑張っております。本年度中には出版に漕ぎ着けたいと考えています。

翻って、我々のSOFJOについて述べたいと思います。昨年の「INFOS」19号に会長就任の挨拶で、私は二つの問題を解決してゆかねばならないと書きました。

第一に日本整形外科学会に本学会の緊密な連携を求めたいことでした。この件については早速日整会中村耕三理事長宛に、本学会からの趣旨と希望を送り理解を求めました。国際委員会を通して、精力的に推進する方向に向けてもらうよう努力いたしました。しかし、これに対しては拒否の返事が参りまして、いささか驚いた次第です。一方では既に、アングロサクソン系の学会や近隣の中国、韓国などは、日整会誌に正式な広報記事としてこれら学会との連絡・報告事項が掲載されています。また、交換留学生の募集、報告も正式に広く告知されています。全くこの拒否は理解できません。

拒否された理由は、判然としません。ただ、我々が



## 小林 晶

創立以来休むことなく活動を持続している事実は厳然としていて、これは他の関連学会と比べて勝るとも劣ることは決してないと確信しております。

この問題はSOFJOの今後の発展のためには、持続して理解を得るべく努力したいと考えていますので、会員の皆様方にも、是非この趣旨を機会ある毎に広報して頂きたいと念願するものです。

第二の問題は運営資金のことで、会の運営や20年来進めてきました、交換留学生制度を維持するための経費が必要なことは言うまでもありません。これまでは、納入された学会費と、協賛して頂く方々のご芳志で運営してきましたが、昨年度に至ってかなり切迫して参りました。種々方策を考えたのですが名案がなく、止むを得ず会員の皆様方のご援助を頂く以外に方法がありませんでした。

しかし、このことを提案させて頂きましたところ、個人で百万円の寄付を頂いた会員を筆頭に、多額の浄財が集まりました。いざという時期に、これだけのご芳志を頂けるのは、会員の皆様方の温かい熱意以外の何者でもない、代表者として感謝を申し上げる次第

です。本当に有難うございました。

しかし、ある程度の恒常的な財源を求めての努力は続けてゆかねばなりませんので、今後ともご協力、ご支持をお願い申し上げます。

さて、本年度は来る6月2～4日にボルドーにおいて、AFJOが開催されます。ご承知の通り、ボルドーは世界的なワインの名産地で、歴史的にも大きな遺産を持っている都市です。ここでの会合には既に多数の人々から問い合わせを受けております。これをみても、多くの皆様の関心の深さがうかがえますし、是非ご家族ともども多数のご参加を期待しております。パリでお会いした会長のProf. Alain DURANDEAUも多くの参加を頂きたいと、期待を籠めて話しておられました。お知り合いの方々にも機会があれば、お知らせくださると幸いです。

さらに来年(2012年)開催予定の第15回SOFJOは、飯田哲先生(千葉県松戸市立病院)を会長として開催されることをお知らせしておきます。

今年の会員の皆様方のご多幸を祈念して挨拶に代えさせていただきます。



## 第14回 日仏整形外科学会を開催して

# 広島での再会、そして今後の発展へ

第14回日仏整形外科学会 (Société Franco-Japonaise d'Orthopédie; SOFJO) を平成22年9月25日(土)に広仁会館において開催させていただきました。

第1回の本学会は七川歓次先生(滋賀医科大学名誉教授)により1987年に神戸で開催され、前回の第13回学会は2008年に金子和夫先生(順天堂大学教授)により開催され、回を追うごとに参加者も増加しております。本学会員はフランスでの留学経験のある方やフランスの整形外科や文化に興味を持たれている方であり、会員数200名余りのこじんまりとした学会ではありますが、

フランスの文化やフランス人のespritに触れることができることが本学会の最大の特徴であります。今回も参加者は約100名でしたが、北は北海道から南は沖縄まで全国から参加していただきました。

特別講演として、リヨンのCaton J. 先生には「THA: The Charnley low friction arthroplasty is always of current events and fashionable in 2010?」、同じくリヨンのChambat P.先生には「From the antero-lateral tenodesis to the reconstruction of the ACL with one or two bundles」、パリのHerinigou P.教授には「Recent



concepts of stem cells in orthopaedic surgery: Avascular osteonecrosis」、そして小林晶先生には「日本人医師として最初にフランスで学んだ高松凌雲(1837-1916)」をご講演いただきました。いずれも長年の経験に基づいたexpert opinionを述べていただき、大変有益でありました。

シンポジウムとしては最近、注目を集めているFemoro-acetabular impingement (FAI)を取り上げて、国内で特にFAIを熱心に研究されている3名の先生と私の韓国の親友である忠南大学病院のHwang D.S.教授にFAIの診断と治療について述べていただき、演者ならびに参加者との間で活発な討論をおこなうことができました。

本学会が特に傾注している交換研修制度によってフランスで研修を終えた4名の方には、帰朝報告をお願いし、パリ、リヨン、グルノーブル、マルセイユなどフランスの種々の病院での研修内容などを報告いただきました。いずれも日本では決して得ることのできない臨床経験を積まれ、何よりもフランスが好きになって帰国されたことは学会役員にとって大きな喜びであ

ります。

私も1995年度の交換研修においてリヨンのCaton先生、Cartillier先生ならびにパリのCourpied先生、Kerboull先生に指導を受け、THAに対する考え方や手術手技において有益な知識を得ることができました。Non-touching techniqueやKerboull plateとallograftによる再建法は、現在も日常的に使用しており、フランスで学んだ知見は私の股関節外科に対する姿勢に大きく影響しています。

学会前日の9月24日の夜には全員懇親会を開催いたしました。この懇親会において、安価であるが美味しいワインを参加者に飲んでいただくことが本学会長の重要な仕事の一つであると認識しておりましたが、概ね良好な評価をいただき、安堵しております。

大きなトラブルもなく、無事に学会を終えることができましたのも、本学会役員の方々ならびに広島大学整形外科学のご支援によるものであり、厚く御礼申し上げます。また、学会運営について越智光夫教授には暖かいご助言とご支援をいただきましたことを深謝いたします。



■ 帰朝報告

座長：小林 晶・安永裕司

2008年日仏交換研修報告

金澤博明（順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院整形外科）

帰朝報告

渡辺千聡（大阪医科大学整形外科）

日仏整形外科学会 交換留学 帰朝報告

浅田 卓（関西医科大学整形外科）

フランス縦断研修

山本りさこ（青田総合病院整形外科）

■ 特別講演1

座長：大橋弘嗣

**THA: The Charnley low friction arthroplasty is always of current events and fashionable in 2010?**

Jacques Caton（Clinique Emilie de Vialar, Lyon）

■ 特別講演2

座長：瀬本喜啓

**From the anterolateral tenodesis to the reconstruction of the ACL with one or two bundles**

Pierre Chambat（Centre Orthopédique Santy, Lyon）

■ 特別講演3

座長：久保俊一

**Recent concepts of Stem cells in orthopaedic surgery: Avascular osteonecrosis**

Philippe Hernigou（Hôpital Henri Mondor, Paris）

■ 特別講演4

座長：金子和夫

日本人医師として最初にフランスで学んだ高松凌雲（1837・1916）

小林 晶

■ シンポジウム

座長：一青勝雄・菅野伸彦

**Mid-term follow-up after arthroscopic management for femoroacetabular impingement**

Deuk-Soo Hwang（Chunnam National University Hospital, Korea）

日本における一次性股関節症とFAIの関連性

菅野伸彦ほか（大阪大学大学院医学系研究科運動器医工学治療学）

Femoroacetabular impingementの治療

中村好成ほか（福岡大学医学部整形外科教室）

臼蓋形成不全股におけるfemoroacetabular impingementの関与

山崎琢磨ほか（広島大学大学院整形外科学）

■ 一般講演／股関節1

座長：藤原正利

臼蓋形成不全股における股関節中心に関する検討

福井清数ほか（金沢医科大学整形外科）

前側方筋間アプローチによる大径骨頭metal-on-metal THAの臨床成績

藤田貴也ほか（慶応義塾大学整形外科）

前方進入法による臼蓋形成不全股 (Crowe grade 2~4) に対する人工股関節置換術

老沼和弘ほか (船橋整形外科病院)

高位脱臼性股関節症に対する大腿骨近位骨切術を用いたTHAの短期成績

禰 史明ほか (大阪府済生会中津病院整形外科)

## 一般講演/股関節2

座長：老沼和弘

Isofar stemの短期成績

鈴木千穂ほか (松戸市立病院整形外科)

CTベースナビゲーションTHAを施行した293関節の人工関節設置角度の調査

徳永邦彦ほか (亀田第一病院 新潟股関節センター)

Impaction bone grafting法を用いた人工股関節大腿骨側再置換術の中期成績

大島誠吾ほか (広島大学大学院整形外科)

Kerboull十字プレートを用いた臼蓋側再置換術の中期成績

堀 淳司ほか (広島大学大学院整形外科)

## 一般講演/脊椎

座長：弓削 至

頸髄疾患に対する高気圧酸素治療—10秒テストによる神経機能回復の検討—

長谷川浩士ほか (公立置賜総合病院整形外科)

後弯変形を伴う頸椎性脊髄症に対する前方および後方除圧術の治療成績の検討

内田研造ほか (福井大学医学部器官制御医学講座整形外科領域)

頸髄損傷後の麻痺回復の割合 - 改良Frankel分類と頸髄損傷高位評価分類を用いて

益田宗彰ほか (労働者健康福祉機構総合せき損センター整形外科)

腰椎変性すべり症に伴う脊柱管狭窄に対する顕微鏡視下後方除圧術の5年以上長期成績

藤原 靖ほか (広島市立安佐市民病院整形外科)

## 一般講演/RA・腫瘍・基礎

座長：藤原憲太

整形外科医がおこなうに適した関節リウマチの治療：薬物療法と手術療法の間位置する白血球除去療法 (LCAP) について

伸田公彦 (こすがクリニック 整形外科)

再置換手術時に抜去したGrowing Kotz Prosthesisの分解検査

小山内俊久ほか (北海道がんセンター腫瘍整形外科)

人工関節置換後感染予防対策として界面バイオアクティブ骨セメント (IBBC) に用いるHAの抗生物質薬剤除放に関する研究

大西宏之ほか (富永病院整形 大西啓靖記念人工関節研究センター)

感染予防として界面バイオアクティブ骨セメント (IBBC) のHAに混合する抗生物質担持 $\beta$ -TCPの薬剤除放に関する研究

溝川滋一ほか (富永病院整形 大西啓靖記念人工関節研究センター)

## 一般講演/膝関節・足・肩関節

座長：青木 清

変形性膝関節症におけるACL各線維束の組織学的評価と顆間窩狭小との関連について

渡辺 新ほか (県北医療センター高萩協同病院整形外科)

CTによる足関節および足部の腱の描出

井上敏生ほか (白十字病院整形外科)

腱板断裂肩におこる経時的上肢温度変化と骨シンチグラム所見

小池洋一ほか (仙台赤十字病院整形外科)

## 第85回 SOFCOT参加報告

# 日仏合同フォーラムに参加して

この画期的な出来事は2009年11月1日に日仏整形外科学会フランス側会長であり、AOT(Académie d'Orthopédie et Traumatologie、SOF COTの臨床部門)の会長であるJacques CATON先生から小林晶会長に届いたメールから始まりました。手紙の内容は、2010年のSOF COTをCATON先生が会長として開催するにあたり、日仏合同フォーラムを企画したいとの打診でした。学会のテーマは“le mouvement et l'autonomie aux patients”(患者の運動と自立)ということで、整形外科とリハビリテーションの広い範囲が含まれます。SOF COTで日仏に関するセッションが開かれるのは初めてのことであり、ヨーロッパで日本関係のセッションが持たれることは滅多にない機会ですので、CATON先生に感謝してこの企画に日本から参加することになりました。

演題募集に関する詳細については、2010年1月にセミナー参加のために渡仏をした際にCATON先生と直接お会いして打ち合わせを行いました。2時間のセッションで発表は8題、日仏の同時通訳もつけることを予定しているということを知り、6月末を締め切りとして演題募集を始めました。募集期間が短かったために演題が十分に集まるかどうか不安でしたが、日本全国から25題というたくさんの演題応募がありました。日本側とフランス側で協力して演題を選択し、最終的には11題が口演として、5題がe-posterとして採択されました。

これまでの連絡のやりとりはフランス流かゆっくりとしたものでしたが、学会が近づくにつれて学会参加登録、通訳のためのプレゼンの提出、e-posterの登録などに関する連絡が細やかに入り、連絡先である私は、SOF COTの事務局と日本から参加される先生に日々メールを送ることになってしまいました。途中、大きいファイルを添付したメールはフランス側に届かないなどのトラブルがありましたが、最終的にはすべての連

絡が終わっており、これもフランス流かと感心しました。特に、SOF COTの事務局のAlexandra DEVILLERSさんにはフォーラム前日に打ち合わせの場をお願いしましたところ快く用意をしていただけ、また現地でも非常に親切にしてください深謝いたします。

さて、日仏合同フォーラムは11月11日午前8時から開かれました。SOF COT最終日の早朝でしたので、フランスからの聴衆が集まってもらえるのか心配でした。しかし、フォーラムが始まる頃にはほぼ会場が埋まる程の聴衆が集まり、ほっとしました。CATON先生の挨拶で始まり、小林先生がSOFJOおよびAFJOについてこれまでの経緯について紹介をされてから演題発表が始まりました。演題は11題で、関節外科に関するものが5題、脊椎外科1題、上肢の再建1題、小児整形外科1題、リハビリテーション2題、医療システム1題と多岐にわたる発表が行われました。ほとんどの発表は英語で行われましたが、フランス語、日本語での発表もあり、またフランスからの質問やコメントはフランス語でしたので、英仏、日仏の同時通訳が有用でした。日本の医療システムについてやりハビリテーション用ロボットなど日本ならではのこのような内容の発表が多く、フランス人の関心も高くてひとつひとつの演題について活発な討論が行われました。2時間の予定でしたが、終わってみると15分程オーバーしており、日仏ともに関心の高いフォーラムであったのではと思われました。

フォーラムの最後を小林先生がまとめられ、お礼を述べられますと、CATON先生からも大成功であったとのコメントがありました。最後は2011年6月2～4日にボルドーで予定されています第11回AFJOのお知らせがあり、無事にフォーラムは成功裏に終わりました。フォーラム終了後も日仏の先生方の話が絶えず、日仏の先生方間で多くの深い親交が築かれていることが



分かりました。また来年はボルドーで会いましょう！  
最後になりましたが、日仏合同フォーラムを企画し

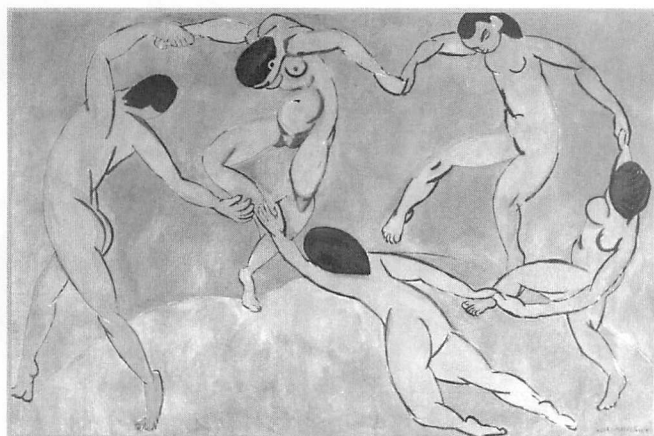
てくださったCATON先生とお世話してくださった  
SOFECOTの事務局に感謝いたします。

## Forum Japan

*Modérateurs : Alain DURANDEAU, Kazuo KANEKO,  
Akira KOBAYASHI, Hirotsugu OHASHI*

1. La mesure de la fixation initiale de prothèse cotyloïdienne "press-fit" durant l'intervention chirurgicale  
*Kazuo Kaneko (Tokyo)*
2. Reconstruction of lower limbs for the better autonomy of children with congenital tibial hemimelia  
*Toshio Fujii (Saga & Fukuoka), Akifusa Wada, Kazuyuki Takamura*
3. Results of acetabular revision using Kerboull-type reinforcement device. Independence of daily walking  
*Chiaki Tanaka (Kyoto), Hiroshi Kanoe, Ryouichi Nagahara, Toshiyuki Kitaori, Eiyu Kinn, Tomohito Kobayashi*
4. Orthopaedic intervention and collapsed health care system in Japan. For the independence of patients with locomotor disorders  
*Kimihiko Nakata (Kosuga)*
5. Fall efficacy is related to muscular coactivation at ankle joint during walking in older people  
*Tadao Tsuboyama (Kyoto), Koutatsu Nagai, Minoru Yamada, Kazuki Uemura, Yosuke Yamada, Noriaki Ichihashi*
6. Tight hamstrings change lumbar spinal alignment: a new radiographic evaluation in anteroposterior and lateral view under dynamic straight leg raising  
*Junji Kamogawa, Goutaro Yamaoka (Ehime), Sanshirou Shiraishi, Tadao Morino, Tadanori Ogata, Hiromasa Miura*
7. Health-related quality of life after knee surgery for osteoarthritis  
*Tadayuki Hoshi, Fumito Komatsu, Hiroshi Nakajima, Mitsuru Komatsu*

8. Cup positioning and leg lengthening in THA for dysplastic coxarthrosis assisted by image-free navigation system  
*Hirotsugu Ohashi (Osaka), Fumiaki Inori, Hirotake You, Yoshiaki Okajima, Kenji Fukunaga, Masanori Matsuura*
9. Isolated acetabular revision without removal of the well-fixed uncemented stem for early return to society  
*Kiyokazu Fukui (Kanazawa), Ayumi Kaneuji, Tanzo Sugimori, Toru Ichiseki, Tadami Matsumoto*
10. Ultrasonographic evaluation of the functioning free muscle transfer  
*Narihito Kodama (Shiga), Shinji Imai, Yoshitaka Matsusue*
11. New robotic technologies for rehabilitation and independence living of the elderly or the handicapped  
*Shin-Ichiro Takasugi (Kyushu), Tetsuro Nejime, Ichiro Kawano, Yukihide Iwamoto*



## 日仏交換研修帰朝報告

滋賀医科大学整形外科  
奥村法昭先生

平成22年度日仏整形外科学会の交換研修制度を利用して、9月から12月初旬にかけてストラスブルとパリの大学附属病院にて研修を行ないましたので、報告させていただきます。

## はじめに

現在私はリウマチ・関節外科グループに所属し、関節リウマチに対する薬物治療ならびに外科手術を行っています。フランスにおけるrheumatologistの治療方法や考え方にも興味はありましたが、フランス語の問題や3ヶ月という短い期間であることを考え、今回は

orthopaedic surgeonとしての研修を行なうことと致しました。下肢の人工関節とともに手の外科にも関心があることから、面接時にお願いをさせていただき今回の2ヶ所での研修を行なうこととなりました。今から思えば両施設共に日本と非常に縁の深い先生方が居られたことは、私にとって初めての異国での研修を楽しむものとしてくれました。また同時期に研修をすることとなった順天堂大学整形外科学教室の内藤先生と本間先生(写真1)、湘南鎌倉人工関節センターの塚本先生、国立がんセンターの菊田先生とは仲良くいただき、たびたび飲み회에誘っていただいたのも良い息抜きになりました。



●写真1 順天堂大学の内藤先生と本間先生

## ■ ストラスブール

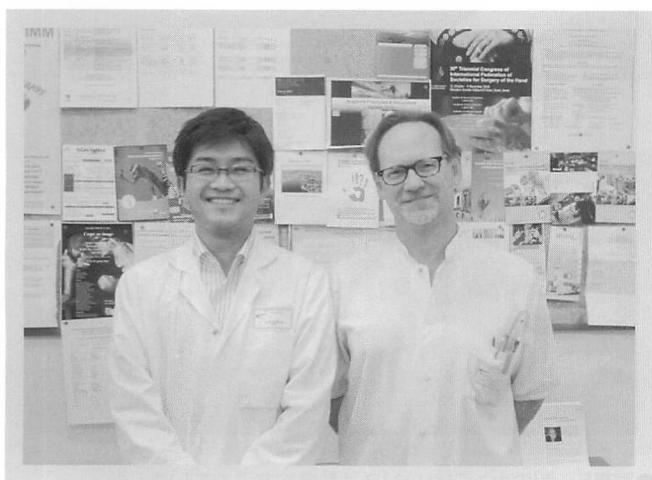
ストラスブール大学附属病院は大きく3つに分かれており、手の外科・下肢の手術はIllkirchという中心部からはトラムで20分ほどの閑静な住宅街に位置する整形外科専用病院で行なわれています。手の外科部門はLiverneaux教授とスタッフ医師3人、インターン3人で診療に当たられていました。手の外科部門に関しては24時間救急にも対応しておられ、同病院での年間5,000例近くの手術のうち半数は手の外科の手術で、800件近くが緊急手術と非常に活発な病院です。その実績は最新のジャーナルでもフランス国内で第3位にランクインされるほどです(実際はもっと上位のはずだが、次は更に上位になるように頑張るとLiverneaux教授は言っておられました)。

時差ボケもあるだろうから、お昼から外来に来るように連絡を受けていましたので、外来をウロウロしていると、「オクムラセンセイ、コンニチハ。」と日本語で話しかけていただいたときの安堵感は今でも鮮明に覚えています。それもそのはず、Liverneaux教授はこの交換研修にフランス側から初めて参加された先生であり、日本の文化や医療情勢なども良くご存知でした(写真2)。手術中にも「ライトをつけてください」と日本語でおっしゃると、周りのスタッフが自然に行動しているのが不思議な光景でした。また研修の後半にはお家にご招待いただき、奥様のフレンチディナー(パリでシェフをしておられるそうです)を頂いたのには感動しました(写真3)。(今回の研修期間中に食べたフレンチの中でも1、2を争う美味しさであったのは決してお世辞ではありません)

私の一日のスケジュールは朝8時のカンファレンスか

ら始まります。まずインターン医師が昨日の救急外来症例を報告します。ここでは全ての症例の写真を撮影しそれを提示します。そのため創の状態など一目瞭然であり学生にも勉強になるシステムだと思いました。また、単純な縫合処置のように見えても、しっかり麻酔と駆血を行い神経・血管・腱損傷の有無を確認し、皮膚断端のdebridementを行い縫合する姿勢は全員に徹底されており、Liverneaux教授の指導の賜物であると感じました。その後、前日の手術症例の報告がありますが、手術記録にはレントゲン像、術中写真が掲載されておりこれも一目瞭然です。時には同じミスが続き叱責する場面もありましたが、全体的には和やかなカンファレンスでした。

その後はLiverneaux教授の外来と手術見学ですが、手術に関してはほぼ全例手洗いをして参加させていただきました(写真4)。手の外科の手術は多岐に渡るため様々な手術を見学しましたが、やはり印象に残っているのは人工関節の手術でした。同病院では可能な限り腋窩神経blockで手術を行い、侵襲の大きな場合はカテーテルを用いた疼痛コントロールにて日帰り手術を可能にしています。人工手関節の手術も滞在期間中に見ることができたのですが、症例は関節リウマチの女性・強直例で、他の手術と同様に日帰り手術でした。背側アプローチ、インプラント設置など流れるように手術が行われ、2時間もかからずに手術は終了しました。術後は「no drainage, no dressing change, no rehabilitation」ということで、外来受診は2週間後でしたが、そのときには疼痛もなく腫脹も軽減しており、患者の満足度も高いようでした。まだまだ成績が良くないという報告が多く、フランス国内でも敬遠する医師がいるよう



●写真2 Liverneaux教授と



●写真3 Liverneaux教授のご自宅にて

ですが、Liverneaux教授はTHAやTKAのような手術にしたいとおっしゃっておられました。実際、術後4年目の症例を外来で見ましたが、弛みもなく良好な経過をたどっているようでした。

そのほかにも、切断指の再接着や開放骨折、神経血管損傷など毎日のように来る緊急手術をスタッフ医師が高いレベルで行っており、専門医としての自信とどんな外傷にも対応できる心構えが出来ているのだと実感しました。6ヶ月で移動していくはずのインターン医師(彼は泌尿器科希望であったようですが)もヒマがあれば手の外科の教科書を眺めており、日本のローテーションで回ってくる研修医とは意識が違うように感じました(もちろん私も人の事は言えませんが)。



●写真4 手関節鏡手術前のLiverneaux教授とインターン医師

## パリ

10月中旬からの後半はパリ市内のCochin病院で研修を行ないました。こちらの病院は多くの先生方がこの研修制度を利用して訪れておられます。整形外科部門は2つのunitに分かれており、私はCourpied主任教授(日仏整形外科学会の元会長であり、2009年には日本整形外科学会の名誉会員になりました)のおられるservice Aで主にTHAの研修をさせていただきました。Service Aは主に関節外科、Service BはAnract教授がchiefをされており主に腫瘍外科をされているということでしたが、実際にはそれほど厳密な区別は無いようでした。症例数は非常に多く、THAが年間800例(再置換が約2割)、TKAが300例と、フランスを代表する人

工関節センターであり、最新のジャーナルでもTHAで2位、TKAで3位と常に高い評価を受けている病院です。

Cochin病院では、毎朝7時45分からカンファレンスが始まります(写真5)。前日の当直医(インターン医師)と学生による症例報告が行なわれ、同時に手術適応のある症例については手術の段取りがその日の担当医(スタッフ医師)によって決められます。手指の骨折から病的骨折に対するTHAまで緊急手術と見なされ、基本的にはその日のうちに手術が行われます。こうしてスタッフ医師が鍛えられていくのを感じました。その後、service AとBに分かれて前日の手術症例の報告(これも学生が行ないます)の後、月曜日はCourpied教授の外來見学、火曜日から木曜日は手術見学、金曜日は回診などに参加させて頂きました。月曜と水曜には17時半より術前カンファレンスがあり、実際にCourpied教授が患者を診察されながら、手術方法など熱心に議論しておられました(写真6)。

Cochin病院でのTHAはCharnley-Marcell-Kerboulという機種を使用し、白蓋・ステム共に全例セメント固定です。アプローチは大転子を骨切りするCharnleyアプローチで、症例に応じて骨切り部をsoft-wireかhook plateで固定されています。Courpied教授はprimaryの症例では外側広筋を温存した骨切りも行なっておられました。手術手技に若干の改良はあるものの基本コンセプトは数十年の間変わらず継承されていました。私は幸いCourpied教授、Matheu教授、Hamadouche教授の手術に手洗いで参加する機会を与えて頂きましたが、皆が一様にスタッフ医師やインターン、学生にまでその手技や考え方を正確に伝えておられ、そこには一切の妥協無く今尚その技術が



●写真5 朝のカンファレンスは熱気にあふれていました

受け継がれていました。外来では20年以上経過した症例も数多く見学させていただき、Courpied教授の「どうしてこの手術手技を変える必要があるのだ」とおっしゃっておられたことも良く理解できました。また再置換術では、Kerboull plateによる臼蓋の再建、骨移植、impaction bone graftなどを駆使して、もし自分であれば途方にくれるであろう症例でも、通常のTHAと同じように淡々と手術をしておられました。手術時間も再置換といえども3時間ぐらいで終わっていたように思います。

Cochin病院はパリ大学の附属病院であり、同時期(10月から12月の3ヶ月間)に学生が計22名(!!)整形外科に臨床実習として回っておりました。各スタッフ医師に2,3人ずつ学生がついて実習するため、Courpied教授についていた学生とはいつも一緒に居ることになりました。彼らにすれば日本からの医師にどう接すればいいのか戸惑ったことだと思いますが、皆親切にしてくれ学生時代に戻ったかのような気分になれたのも楽しい思い出です。また、学生の約7割が女性であることも驚きでした。どうやらフランスでは進級試験が難しく、真面目な女性の割合が増えてしまうそうです。今後、彼女達が整形外科医を志すのかは分かりませんが、外科系の医師が減少する可能性はありそうです。日本でも女子学生が増えていますが、整形外科を希望する女性医師が増えることを願うばかりです。



●写真6 カンファレンス終了後、Courpied教授とスタッフ、インターン医師

## 最後に

私にとってフランスは2度目の訪問でしたが、1度目は数年前の新婚旅行で、ただが1週間のあわただし

い訪問でした。そのため今回は週末を利用して色々な街に出かけたり、パリの街中をのんびり散歩したりと、フランスという国を知る良い機会となりました(写真7)。日本にいとフランスの美しい町並みや文化・芸術、美味しい料理など良い面ばかりがマスメディアから流れてきますが、実際にはタバコや犬の糞で通りは汚れていますし、いわゆるストリートチルドレンが観光客を狙っていたり(私はお金を持ってなさそうに思われたのか幸い狙われませんでした)、夜中まで通りで騒ぐ若者がいたり(水曜から土曜にかけては、うるさくて寝不足でした)と当然悪い面も見えてきます。ただそれを補って余りあるほど今回出会った人々は皆親切であり、たどたどしいフランス語の挨拶にも笑顔で接してくれましたし、お互いが母国語でない英語で何とかコミュニケーションを図るのも面倒くさがらずに付き合ってくれました。おかげで3ヶ月の研修を楽しく過ごすことが出来ました。最近では日本人の海外留学生が減少しているとニュースで聞くことがありましたが、実際に経験してみないと分からないことがあるのだと改めて認識しました。今後もこのような制度を利用して海外に行かれる先生方が増えることを期待いたします。

最後にこのような素晴らしい経験をさせていただくことが出来、七川名誉会長、小林会長をはじめ日仏整形外科学会の役員の方にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。また3ヶ月間医局業務から離れることを許していただいた松末教授、医局の先生方にもお礼申し上げます。ありがとうございました。



●写真7 クリスマスのシャンゼリゼ通り



フランス整形外科学会 (SOFJCOT) の広報誌である bof に広島で開催されました第14回 SOFJO に関する記事が掲載されました。この記事はCaton先生が書かれたもので、2010年の SOFJCOT に日仏合同フォーラムを開催するにあたり日仏の協力が続いていることの一例として紹介されました。



## 日本側・フランス側役員を紹介します

### 日本側役員

- 名誉会長 七川 勲次
- 会長 小林 晶
- 副会長 瀬本 喜啓
- 書記長 大橋 弘嗣
- 書記 弓削 至
- 青木 清
- 藤原 憲太
- 幹事 坂巻 豊教
- 金子 和夫
- 安永 裕司
- 久保 俊一
- 名誉会員 小野村敏信
- 日本側公式連絡員 ジラン敬子

### フランス側役員

- President Jacques CATON (Lyon)
- Vice President et Secrétaire General Philippe MERLOZ (Grenoble)
- Tresorier Philippe WICART (Paris)
- Membres du bureau Philippe LIVERNEAUX (Rochefort)
- Jerome COTTALORDA (Saint Etienne)
- Arain DURANDEAU (Bordeaux)
- Jean Pierre COURPIED (Paris)
- Laurent SEDEL (Paris)
- Olivier GUYEN (Lyon)

## ■ 日仏整形外科学合同会議 (AFJO) 開催一覧

会 期	開 催 地	議 長
第 1 回 1990年 11月12日	パ リ	Régie C. Michel
第 2 回 1992年 10月 4 日	京 都	七川 歆次
第 3 回 1994年 11月 7 日	パ リ	Charles Picault
第 4 回 1996年 4 月13～14日	東 京	菅野 卓郎
第 5 回 1998年 9 月17～19日	リヨン	Jean Pierre Courpied
第 6 回 2001年 5 月11～12日	大 阪	小林 晶
第 7 回 2003年 9 月26～27日	グルノーブル	Philippe Merloz
第 8 回 2005年 5 月 6 ～ 7 日	京 都	瀬本 喜啓
第 9 回 2007年 9 月14～15日	ニース	Jacques Caton
第10回 2009年 5 月28～30日	沖 縄	大橋 弘嗣
第11回 2011年 6 月 2 ～ 4 日	ボルドー	Arain Durandeau
第12回 2013年		

## ■ 日仏整形外科学会 (SOFJO) 開催一覧

会 期	開 催 地	会 長
第 1 回 1987年 11月 6 日	神 戸	七川 歆次
第 2 回 1988年 10月29日	東 京	七川 歆次
第 3 回 1989年 11月11日	大 阪	七川 歆次
第 4 回 1991年 11月 9 日	大 阪	七川 歆次
第 5 回 1993年 10月30日	大 阪	七川 歆次
第 6 回 1995年 5 月10日	大 阪	七川 歆次
第 7 回 1997年 11月 1 日	大 阪	七川 歆次
第 8 回 1999年 10月16日	大 阪	山野 慶樹
第 9 回 2000年 11月25日	横 浜	坂巻 豊教
第10回 2002年 10月12日	弘 前	原田 征行
第11回 2004年 11月 6 日	神 戸	小野村敏信
第12回 2006年 10月14日	京 都	久保 俊一
第13回 2008年 9 月27日	東 京	金子 和夫
第14回 2010年 9 月25日	広 島	安永 裕司
第15回 2012年 9 月22日	東 京	飯田 哲

# あなたも フランス研修に!

日仏整形外科学会では、フランス整形外科学会（SOFECOT）との間で青年整形外科医の交換研修を行っております。来年度の研修条件、応募条件等は下記のとおりですでお申し込みください。

本交換研修プログラムの趣旨は、フランスとのコネクションを持たない青年医師に留学先を紹介し、渡航費用と滞在費の一部を援助するというものです。したがって、一度フランス留学を経験しておられる先生は応募をご遠慮ください。

## 募 集 要 項

1) 募集人員	若干名（平成24年度）
2) 研修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>滞在期間は3か月間を原則とする。 この間はビザが不要であるが、これを越して滞在する場合の延長に関するすべての手続き（語学学校入学手続きやビザ発給のための受け入れ承諾書の依頼等）は自分ですること。 1か月単位であれば複数の施設での研修も可能である。</li> <li>フランスでの滞在施設は、希望する研修分野等に応じてフランス側の担当委員が最も適当と思われる施設を推薦する。ただし応募者が特定施設を希望するときは申し出ることができる。</li> <li>費用について <ol style="list-style-type: none"> <li>渡航費用の一部を日仏整形外科学会が援助する。</li> <li>フランス滞在中の滞在費、食費および移動などの費用は原則として自己負担とする。</li> </ol> </li> <li>帰国後、仏語（英語でも可）と日本語での報告書の提出ならびに本会の総会での帰朝報告を行う。</li> <li>本年度の研修開始時期は4月以降とする。</li> </ol>
3) 応募条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>応募者は日仏整形外科学会会員であること。</li> <li>応募者は日本整形外科学会認定医であること。</li> <li>原則として40才を応募年令の上限とする。</li> <li>勤務している病院または施設の責任者の承諾のあるもの。</li> <li>フランス語または英語を話すもの。</li> </ol>
4) 応募に必要な書類	<ol style="list-style-type: none"> <li>日仏整形外科学会交換研修申請書（TXT、PDFをダウンロード・毎年様式が変わるので、注意する事）</li> <li>履歴書（大学卒業以降とする）</li> <li>応募の動機や抱負についての小論文</li> <li>日仏整形外科学会会員1名の推薦状—推薦者は身元保証人に準ずる者と考えること。</li> <li>業績目録—主な発表論文5編以内（論文の別刷りは不要）</li> <li>渡仏承諾書 <ol style="list-style-type: none"> <li>大学の医局勤務者……………教授の承諾書</li> <li>病院または施設勤務者……………勤務している病院または施設の責任者の承諾書 (大学の医局人事により出張中の者は、教授の承諾書も要す。)</li> </ol> </li> </ol> <p>以上1. 以外の書式は自由であるが、すべてA4サイズに統一し、上記の順にならべて左上をホチキスで綴じること。また、<u>コピーを12部を同封すること。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>連絡用住所シール（5枚）……………希望する連絡場所を記入してあて先は～～～先生としてください。</li> </ol>
5) 選考方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1次審査は書類選考とする。書類審査の結果は平成23年7月上旬に個別に連絡する。</li> <li>書類選考に合格したのものには平成23年8月上旬に大阪府済生会中津病院において面接を行う予定である。面接の時間は個別に通知する。</li> <li>合否は平成23年8月中旬に通知する。</li> <li>合格者は後日改めて仏文または英文の履歴書等、フランスでの研修に必要な書類が求められる。</li> </ol>
6) 申請締め切り	平成23年6月30日必着
7) 申し込み先	<p>日仏整形外科学会事務局    大阪府済生会中津病院整形外科内 〒530-0012 大阪市北区芝田2-10-39 大阪府済生会中津病院整形外科 Tel(06)6372-0333 Fax(06)6372-0339</p> <p style="text-align: right;">日仏整形外科学会    係 大橋 弘嗣</p>





# 日仏整形外科学会交換研修申請書

様式 2

H24-1

申請者氏名 \_\_\_\_\_ 性別 \_\_\_\_\_ 年齢 \_\_\_\_\_ 歳

仏 文 姓 \_\_\_\_\_ 名 \_\_\_\_\_

生 年 月 日 \_\_\_\_\_

住 所 〒 \_\_\_\_\_

電 話 番 号 \_\_\_\_\_

勤 務 先 名 \_\_\_\_\_

勤務先住所 〒 \_\_\_\_\_

勤務先電話番号 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

E-mail Address \_\_\_\_\_

研修を希望する専門領域 \_\_\_\_\_

研修を希望するフランス側の機関（病院）があればお書きください。

希望する滞在期間 平成 24 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日 から 平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

（本年度は4月以降から研修開始とする）

会話可能な外国語（○印をつける）

\*フランス語 \*英語 \*その他（ \_\_\_\_\_ ）

家族について（○印をつける）

\* 同伴する \* 同伴しない

配偶者も医療関係者の方はその職種を書いてください

過去に本学会の交換研修に応募歴がある方は、何年に面接を受けたかお書きください。

平成 \_\_\_\_ 年

上記の如く日仏整形外科学会交換研修を希望し応募いたします。

平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

氏名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

# フランス人研修医 受け入れのお願い

本年度も日仏整形外科学会とフランス整形外科学会（SOFECOT）との間で、青年整形外科医の交換研修を実施いたします。

受け入れ期間は原則として3ヶ月間ですが、1ヶ月でも2ヶ月でも結構ですので、是非会員の先生方のおられる施設で、フランス人整形外科医の研修を受け入れて頂きたくお願い申し上げます。

来日するフランス人医師は、英語を話す事が条件になっております。また日仏間の旅費はSOFECOTが支給し、日本での滞在費（宿泊費・旅費）は、日本側（原則として受け入れ施設が）負担することになっております。受け入れを承諾していただける場合は、受け入れ承諾書に滞在条件等をご記入いただき、係までご送付ください。

日仏整形外科学会 会長 小林 晶  
日仏整形外科学会 交換研修係 小林 晶  
連絡先：大阪府済生会中津病院整形外科

〒530-0012 大阪市北区芝田2-10-39  
TEL 06-6372-0333（お問い合わせは大橋弘嗣まで）  
LU7H-OOHS@asahi-net.or.jp



# フランス整形外科医交換研修受け入れ承諾書

様式 1

(日仏整形外科学会 交換研修プログラムによる)

フランス青年整形外科医を対象とした、交換研修プログラムの日本側受け入れを以下の条件のもとで承諾します。(すでに登録されている施設は、変更事項のある場合のみお送りください。)

受け入れ責任者 \_\_\_\_\_

受け入れ施設名 \_\_\_\_\_

住 所 \_\_\_\_\_

電話番号 ( \_\_\_\_\_ )

専門分野 \_\_\_\_\_

受け入れ条件 (該当する項目の□内にチェックして下さい)

\*受け入れ可能な期間 (原則としては3カ月間です)

3カ月間  2カ月間  1カ月間  何カ月でもよい  その他 ( \_\_\_\_\_ )

\*受け入れ可能な時期

月から 月まで  月を除く  常時受け入れる

その他 (具体的に \_\_\_\_\_ )

\*受け入れ可能な人数

年間1人  年間2人  年間3人以上  その他 ( \_\_\_\_\_ )

同一時期に1人  同一時期に2人以内  同一時期に3人以上

その他 ( \_\_\_\_\_ )

\*宿泊設備について

宿泊設備を無料で利用可能

宿泊設備を有料で利用可能 (1日 \_\_\_\_\_ 円)

宿泊設備は備えていないがホテル等の宿泊費は支給する

宿泊設備は備えていない。ホテル等の宿泊費も支給しない

その他 ( \_\_\_\_\_ )

\*食事について

施設内で食事を用意する

施設内で食事の準備はしないが食費を支給する

一部施設内で食事を用意し、一部食費を支給する

その他 ( \_\_\_\_\_ )

\*交通費について

交通費を支給する

交通費は支給しない

その他 ( \_\_\_\_\_ )

\*その他

日本国内の学会等への参加を援助する

その他 ( \_\_\_\_\_ )

以上の条件のもとに日仏整形外科学会の青年整形外科医の日仏交換プログラムの日本側受け入れ機関となることを承諾します。

平成 年 月 日

受入責任者 氏名

印

# 第11回日仏整形外科合同会議 開催のご案内

## (Congrès AFJO 2011)

ボルドーはワインの有名な産地であることは言うまでもありませんが、古くから大学があり現在でもヨーロッパ最大の学生街でもあります。また、風光明媚な観光地でもありますので、食事、ワイン、観光も十分に楽しむことができます。

学会では郊外へのエクスカージョンや食事会も企画される予定です。

詳細が分かり次第、ホームページに掲載していきますので、最新の情報はホームページをご覧ください。

多くの先生方、ご家族の参加をお待ちしています。

### 記

【会 期】 2011年6月2日(木)～4日(土)

【場 所】 ボルドー(フランス)

【会 長】 Prof. Alain Durandeu (Hôpital Pellegrin, Bordeaux)

【テ ー マ】 La navigation est-elle utile en 2011? (2011年、ナビゲーションは有用か?)

Les techniques mini invasives (最小侵襲手技、MIS)

Les nouveautés en biomateriaux (生体材料の進歩)

Les nouveaux anticoagulants en 2011 (2011年、新しい抗凝固療法)

Les techniques d'imagerie en chirurgie (手術における画像技術)

【お問い合わせ先】 大阪府済生会中津病院整形外科内

〒530-0012 大阪市北区芝田2-10-39

TEL 06-6372-0333 (お問い合わせは大橋弘嗣まで)

FAX 06-6372-0339

E-mail address : LU7H-OOHS@asahi-net.or.jp

日仏整形外科学会ホームページ : <http://www.sofjo.gr.jp/>



# 第15回日仏整形外科学会

(15ème Réunion de Société Franco-Japonaise d'Orthopédie)

## 開催のご案内

第15回日仏整形外科学会(SOFJO)を担当させていただくことになりました松戸市立病院整形外科の飯田哲でございます。

フランス整形外科の魅力にひかれ、本学会に参加させていただいておりましたが、伝統ある本学会の会長をお引き受けすることになりました。身に余る大変名誉な事と存じます。

私自身フランスへの留学経験はございませんが、フランス整形外科のエッセンスをこれからも益々学んでいきたいと考えておりましたので、これまで本学会に参加されなかった若手から中堅の先生方もお誘いして、本学会がさらに盛大で実り多い会になるようお手伝いしたいと考えております。

会期はH24(2012)年9月22日(土)、場所は東京都内を予定しております。

会員皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

松戸市立病院整形外科 飯田 哲



## 東北地方太平洋沖地震に対するフランスからのメッセージ

---

去る3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震で被災された皆様へ心からお見舞い申し上げます。亡くなられた方々へ心からお悔やみ申し上げますとともに、被災された地域の日も早い復興をお祈りしております。

今回の大震災に対し、フランスからもお見舞いのメールが届いております。個人的なメールですが少しでも元気が出ればと思い、フランス側役員の先生からのメッセージを掲載させていただきます。

I hope that you even and your family are safe. It's very terrible what happens in Japan. All my thoughts are towards you. Best Regards.

Jacques CATON

Many people in France (and many orthopaedics surgeons) are asking me what they could do for helping our colleagues in Japan and Japanese peoples after the Tsunami disaster.

Please let me know some information about you, your family and the situation in your country.

Thanks in advance.

Sincerely

Philippe Merloz

I hope you and your family are well, despite of the very difficult situation of Japan.

Friendly, with best regards

Jean Pierre Courpied

C'est avec tristesse et anxiété que j'ai appris le séisme qui touche votre pays.

Je tenais à vous apporter mon soutien ainsi qu'à votre famille et aux collègues orthopédistes japonais.

Je vous prie de croire à ma sympathie en ces moments difficiles.

Avec mes sentiments les meilleurs.

Pr Alain DURANDEAU

It's with sadness and anxiety that I've learned about the seism that touched your country.

Please tell me about you and pass on my support for your family and to all Japanese people and particularly our orthopedists surgeons.

Sincerely

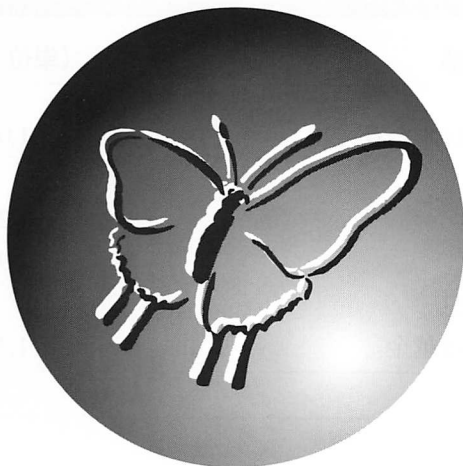
Pr Alain DURANDEAU

I wanted to make sure you and your family are doing good and are staying in a safe place. We think of our Japanese friends every day. Hopefully the situation will get better soon. Please take care. Let me know if I can be of any help for you and your family. I wish I could help you in such a situation.

Take care of you and your family. Very best regards,

Olivier GUYEN

1



## 日仏整形外科学会ボランティアグループ 「パピヨン」 に入会しませんか

——Equipe bénévole pour la SOFJO (AFJO)——

日仏整形外科学会の活動を支えていただくために1996年4月に結成されました。

まず1996年4月13日・14日に東京で開催された第4回日仏整形外科合同会議のお手伝いをするために10数名の先生や関係の方々に登録していただき、会議の開催に協力していただきました。

今後も日仏整形外科学会の運営をお手伝いしていただける先生ならびに一般の方々にボランティアとしてご登録いただき、可能な時間にお手伝いをお願いしたいと思っております。

日仏整形外科学会の会員または会員1名の推薦を受けた方なら誰でも入会できます。

日常的な簡単な英会話ができれば、フランス語は必ずしも必要ではありません。もちろんフランス語のできる方は大歓迎です。シンボルマークは蝶のマークです。

Papillonに関するお問い合わせ、入会申込は日仏整形外科学会事務局、大橋弘嗣まで。

2



Société  
Franco-Japonaise  
d'Orthopédie

Welcome to So.F.J.O Homepage  
ようこそ日仏整形外科学会 (SOFJO) のホームページへ

日仏整形外科学会のインターネットホームページのアドレスは

<http://www.sofjo.gr.jp/>

です。  
是非のぞいてみてください。

- ・沿革
- ・活動内容
- 入会のご案内
- ・役員紹介
- ・共同研究
- ・交換研修
- ・日仏整形外科協議会 (AFJO)
- ・日仏整形外科学会ボランティアグループ
- ・関連リンク集
- ・SOFJO の Top Page へ

## 平成21年度会計報告

歳入の部	(単位：円)
一般会員年会費	404,000
寄附金	630,000
広告料	580,000
預金利息	409
前年度繰越金	2,791,791
計	4,406,200

歳出の部	(単位：円)
日本人交換整形外科医奨学金 渡航費+滞在費(一部) 200,000×4名	800,000
フランス人交換整形外科医奨学金 0名	0
SOFJO/AFJO開催関係費	865,596
日仏整形外科学会関連事業(表彰など)	111,129
日仏共同研究、研究助成金	0
森崎日整形外科学用語集編纂事業	0
インターネットホームページ維持管理費	365,100
コンピューター関連費	0
日仏整形外科学会事務局費	
通信費	76,750
事務費	2,545
アルバイト代	176,000
会議費	6,520
旅費・交通費	115,250
連絡員費用(ジランさん)	100,000
印刷費	394,800
雑費	1,680
出金小計	3,015,370
次年度繰越金	1,390,830
計	4,406,200

## 平成22年度事業費予算編成

歳入の部	(単位：円)
一般会員年会費	1,000,000
寄附金	1,200,000
広告料	900,000
預金利息	800
前年度繰越金	1,390,830
計	4,491,630

歳出の部	(単位：円)
日本人交換整形外科医奨学金 渡航費+滞在費(一部) 200,000×3名	600,000
フランス人交換整形外科医奨学金 滞在費(2ヶ月)+交通費 100,000×2名	200,000
SOFJO/AFJO開催関係費	0
日仏整形外科学会関連事業(表彰など)	100,000
日仏共同研究、研究助成	100,000
森崎日整形外科学用語集編纂事業	400,000
インターネットホームページ維持管理費	380,000
コンピューター関連費	100,000
事務局(通信費、事務費、アルバイト代)	
通信費	150,000
事務費	100,000
アルバイト代	300,000
会議費	100,000
旅費・交通費	400,000
連絡員費用(ジランさん)	100,000
印刷費	500,000
予備費	100,000
出金小計	3,630,000
次年度繰越金	861,630
計	4,491,630



## 4

### これまでに交換研修に 参加された先生方

研修年度	氏名	所属医局
1990	稲毛 昭彦	大阪医科大学
1991	三輪 隆	帝京大学
1991	末松 典明	旭川医科大学
1992	星 忠行	弘前大学
1992	村上 元庸	滋賀医科大学
1992	久保 俊一	京都府立医科大学
1993	小浦 宏	岡山大学
1994	西川 真史	弘前大学
1994	岩崎 幹季	大阪大学
1995	石澤 命仁	滋賀医科大学
1995	安永 裕司	広島大学
1996	安間 基雄	順天堂大学
1996	寺門 淳	千葉大学
1996	仁平高太郎	慶応義塾大学
1997	益田 和明	岐阜大学
1997	金子 和生	山口大学
1998	山川 徹	三重大学
1998	岡本 雅雄	大阪医科大学
1999	清重 佳郎	山形医科大学
1999	川崎 拓	滋賀医科大学
2000	宮本 敬	岐阜大学
2000	藤井 一晃	弘前大学
2000	細野 昇	大阪大学
2001	鳥飼 英久	千葉大学
2001	久我 尚之	九州大学
2002	瀧川 直秀	大阪医科大学
2002	松峯 昭彦	三重大学
2003	柁原 俊久	昭和大学藤が丘病院
2003	矢吹 有里	慶応義塾大学
2004	和田 孝彦	関西医科大学
2004	久留 隆史	広島大学
2004	小山内 俊久	山形大学
2005	小田 幸作	高槻赤十字病院
2005	松尾 篤	九州大学
2006	小室 元	阪和住吉総合病院
2006	城戸 顕	奈良県立医科大学
2006	早稲田 明生	国際親善総合病院
2007	益田 宗彰	総合せき損センター
2007	黒住 健人	高知医療センター
2007	菊池 克久	滋賀医科大学整形外科
2008	水野 直子	行岡病院
2008	金澤 博明	順天堂浦安病院
2008	渡辺 千聡	大阪医科大学
2009	浅田 卓	関西医科大学
2009	山本りさこ	広島大学
2010	塚本 理一郎	湘南鎌倉人工関節センター
2010	奥村 法昭	滋賀医科大学
2011	久保田 光昭	順天堂大学
2011	西脇 徹	慶応義塾大学
2011	鴛田 朝海	東京女子医大膠原病リウマチ痛風センター
2011	金城 健	仙台赤十字病院

## 5

### これまでにフランスから交換研修医として 来られた先生方と研修施設

研修年度	氏名	研修病院名
1991	Philippe LEVEREAUX	京都府立医科大学・広島大学
1991	Luis Michel COLLET	大阪医科大学・滋賀小児センター・福岡こども病院
1992	Frederic DUBRANA	福岡整形外科病院・九州大学
1992	Marc CHASSARD	慶応義塾大学・東海大学・札幌医科大学
1994	Philippe WICART	山口大学・金沢大学
1994	Philippe RENAUX	滋賀医科大学・岡山大学
1995	Michel NINOU	大阪医科大学・新潟手の外科研究所・広島大学
1997	Bernardo Vargas BARRETO	国立小児病院・岡山大学・国立大阪病院
1997	Sylvie MERCIER	大阪医科大学
1998	Jérôme COTTALORDA	大阪医科大学・福岡県立粕屋新光園
1999	Olivier CHARROIS	滋賀医科大学・京都市立病院
1999	Eric HAVET	滋賀医科大学
2001	Laurent JACQUOT	福岡整形外科病院・慶応義塾大学・高岡整志会病院
2001	Alexandre ROCHWERGER	大阪医科大学・山形大学
2004	Brice ILHARRBORDE	総合せき損センター・大阪市立大学
2007	Damien Breitel	総合せき損センター・奈良県立医科大学
2007	Sybille Facca	弘前大学・山形大学・京都府立医科大学・広島大学
2008	Thomas Aparad	山形大学・大阪府立母子保険総合医療センター
2009	Francois Lintz	京都市立大学

6

## 日仏整形外科学用語集改訂について

日仏整形外科学用語集は森崎直木先生が編集を行われ、1989年に第1版が文光堂から出版されました。その後、1991年に改訂版が出版されましたが、森崎直木先生が亡くなられて以降、改訂されることなく現在に至りました。フランスの整形外科を知るためにはどうしてもフランス語の論文を読む必要がありますので、森崎先生の日仏整形外科学用語集は非常に有用な辞書でした。しかし、医学の進歩に辞書も追いついていく必要があると考え、日仏整形外科学会が中心となって用語集の改訂を行うことにいたしました。

現在、編集委員で分担して新語の追加を中心に改訂を進めています。第一の目標はインターネット上で使用できる用語集を作成することにしており、その後本として出版できればと考えています。初めてのことで、ご意見やアドバイスがございましたら事務局までご連絡をください。

7

寄附金を頂戴いたしました。  
ご協力ありがとうございました。

サントリーホールディングス株式会社  
ビー・ブラウンエースクラブ株式会社 (順不同)

## 編集 後記

まずは東北地方太平洋沖地震で災害に遭われた皆様に衷心より見舞い申し上げます。お気づきになったかも知れませんが、今回の号は広告掲載が多くなりました。本学会の主な事業である日仏整形外科学会交換研修制度や学会が徐々に拡大していく一方、会員数はほぼ横ばい、企業からの寄付も縮小傾向のため、学会の運営費が逼迫してきました。やむを得ず会員の先生方に寄付をお願いさせていただきましたが、少しでも自主努力もということで役員一同で広告掲載を一つでも多く取るようにしました。今後も役員の方でできるだけ努力をして会員の先生方にご迷惑のかからないような運営をしてきたいと思っています。ご寄付を頂いた先生方にはあらためて深謝いたします。さて、昨年は9月に広島で第14回日仏整形外科学会が行われました。3名のフランスの先生が講演に来られ、日仏整形外科の交流の様子が報告されています。また、11月にはフランス整形外科学会に日仏合同フォーラムが企画されました。Caton先生からの提案の頃からの経緯も含めて報告させていただきました。初めての企画であり緊張して参加しましたが、暖かい雰囲気の中で議論が盛り上がり、様々な分野での日仏の意見の交換が行われ成功裡で終わったとほっとしています。今年6月2日～4日にフランス・ボルドーで第11回日仏整形外科合同会議が行われます。開催の情報については逐次ホームページに掲載しますので、是非ご覧頂き、たくさんの先生方やご家族の方と一緒にいければと思います。

(係 大橋弘嗣)



# PMT MR/CT ハローベストシステム



製造元：PMT Corporation (米国)  
承認番号：22200BZX00624000/体内固定用ピン  
PMT ハローリングセット  
製造販売届出番号：13B1X00167000031/成型副本  
PMT MR/CT ハローベスト

- ◆ リング、ロッド、固定ピン等はチタンとカーボングラファイト製で軽量
- ◆ X線透過性、MR/CT適合
- ◆ ハローリングとベストの接続ブロック部は全てボールジョイント方式で装着が容易
- ◆ 装着後のディストラクション・コンプレッション、前後シフト、前後傾斜操作が容易
- ◆ オープンバックハローリング採用による頸椎後方アプローチが容易

◆ 小児用ベストも用意されています

★患者に装着した状態で微調整が容易に行えます

- ・ティルティング(前後傾斜) ..... 矢印①
- ・ディストラクション ..... 矢印②
- ・コンプレッション ..... 矢印③
- ・前後シフト ..... 矢印④

★ボールジョイント接続固定

- ・ハローリング部とベスト部前面・背面の連結は全てボールジョイント方式で装着が容易。

★ベスト前面・背面の内面に使用されているライナーは100%天然の柔らかい子羊毛皮

- ・天然の良質ムートン約60%の空気を含んでいます。吸湿力も綿の約2倍。ムレることなく冬は暖かく、夏は涼しく過ごすことができます。クッション効果が圧を分散し、床スレを軽減します。

★エアバッグ内蔵

- ・エアバッグがベスト背面のポリエチレン製のシェルとムートンの間に内蔵されています。エアポンプよりエアバッグに空気を送り込むことによりベストを体にフィットさせることができ、固定力を強めることができます。エアバッグ内の空気圧はエアポンプでの調節が可能です。

★緊急時対応

- ・腰のバックルを緩め、外します。
- ・前面ベストに折り目がついています。この折り目のところでベストを折り返し、背面ベストを“crash board”として使用し、必要に応じてCPRを行います。
- ・工具(レンチ等) 不用。

製造販売元

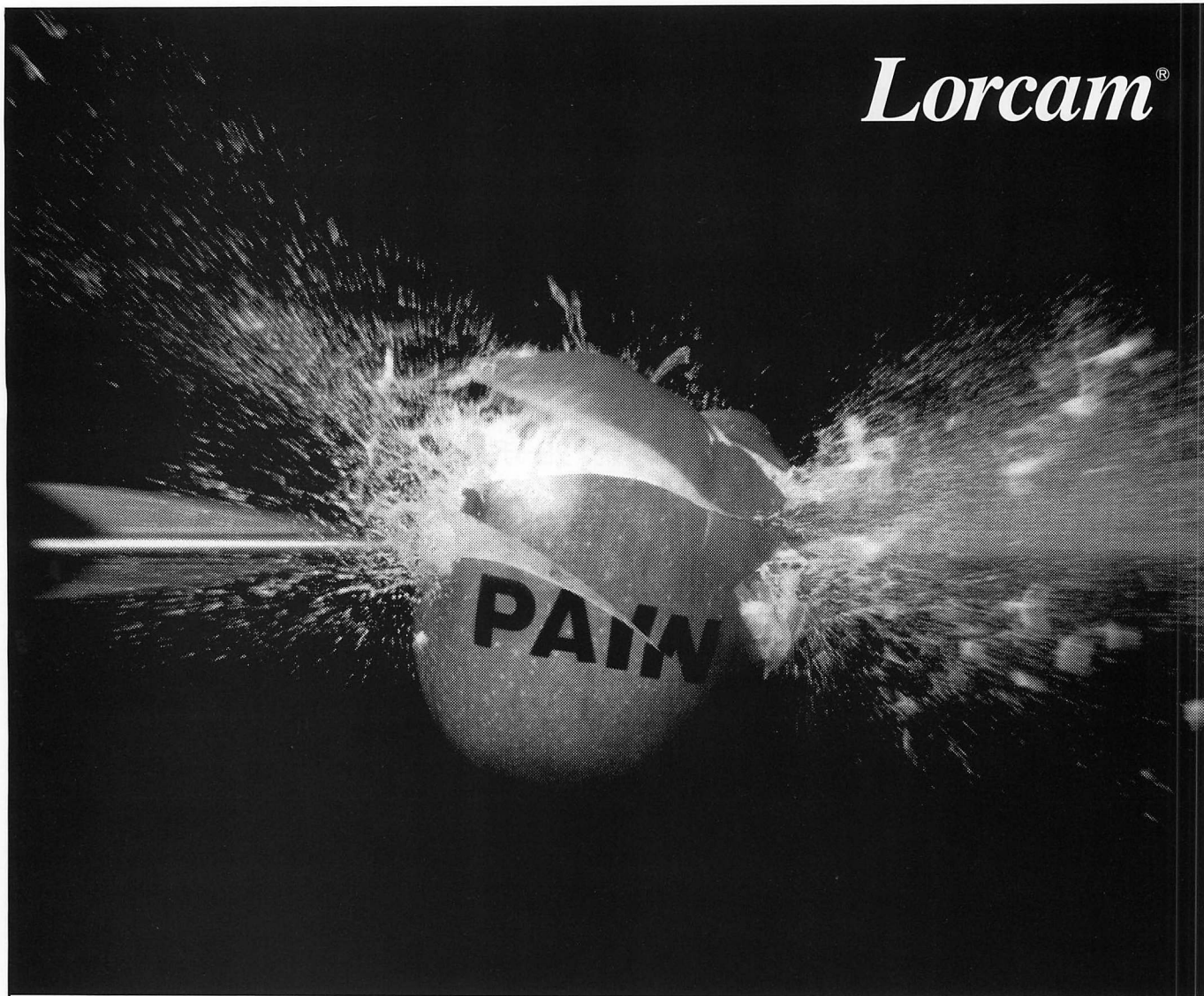
欧和通商株式会社



〒100-0011 東京都千代田区区内幸町1-2-2  
目比谷ダイビル11階  
TEL03(3591)7348(代) FAX03(3501)9001  
第1種医療機器製造販売業許可番号 13B1X00167

東京営業所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-22 湯島アーバンビル2階  
TEL 03(3813)8201(代) FAX 03(3813)8204  
大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-14-22 リクルート新大阪ビル9階  
TEL 06(6304)9305(代) FAX 06(6304)9576  
福岡営業所 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金1-6-15 白金プラザビル3階  
TEL 092(526)3618(代) FAX 092(526)3148  
札幌営業所 〒060-0807 北海道札幌市北区北7条1-2-6 NSS・ニューステージ札幌ビル12階  
TEL 011(708)7725(代) FAX 011(708)7868

Lorcam<sup>®</sup>



劇薬 / 非ステロイド性消炎・鎮痛剤

**ロルカム<sup>®</sup>錠** 2mg  
4mg

ロルノキシカム製剤

薬価基準収載

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」等は添付文書をご参照ください。



発売 [資料請求先]

大正富山医薬品株式会社  
〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1



製造販売

大正製薬株式会社  
〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1

ただ、長生きでなく、  
健康で長生きしてください。

平均寿命 = 健康寿命

10月20日



当番 ももこ

健康寿命：寝たきり等にならない状態で自立して生活できる期間。

健康で活動的に過ごせる期間を延ばすために、  
武田薬品はお役に立ちたいと考えています。



持続性アンジオテンシンII受容体拮抗剤  
[処方せん医薬品注] 薬価基準収載 (カンデサルタン シレキセチル錠)

**ブロプレス錠** 2.4  
8.12



持続性アンジオテンシンII受容体拮抗薬/利尿薬配合剤  
[処方せん医薬品注] 薬価基準収載

**エカード配合錠** HD  
(カンデサルタン シレキセチル/ヒドロクロロチアジド配合錠)



骨粗鬆症治療剤・骨ページェット病治療剤  
[劇薬・処方せん医薬品注] 薬価基準収載

**ベネット錠** 17.5mg  
(リセドロン酸ナトリウム水和物錠)



食後過血糖改善剤 [処方せん医薬品注] 薬価基準収載

**ベイスン錠** 0.2・0.3  
OD錠 0.2・0.3

(日本薬局方 ポグリボース錠、ポグリボース口腔内崩壊錠)



インスリン抵抗性改善剤 [2型糖尿病治療剤]  
[処方せん医薬品注] 薬価基準収載

**アクトス錠** 15・30  
(ピオグリタゾン塩酸塩錠)



速効型インスリン分泌促進薬 [処方せん医薬品注] 薬価基準収載

**グルファスト錠** 5mg・10mg  
(ミチグリニドカルシウム水和物錠)



プロトンポンプインヒビター

[処方せん医薬品注] 薬価基準収載

**タケプロン** カプセル15・30  
OD錠15・30  
静注用30mg

(ランソプラゾールカプセル&口腔内崩壊錠、注射用ランソプラゾール)

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

● 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

(資料請求先)

武田薬品工業株式会社 〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号

http://www.takeda.co.jp/

(1001)T

## All Polished Design

SC Hip System は、JMMが誇る金属の材料技術及び加工技術により生まれた、全く新しいコンセプトを有する人工股関節です。

## Reduction of Stress Shielding

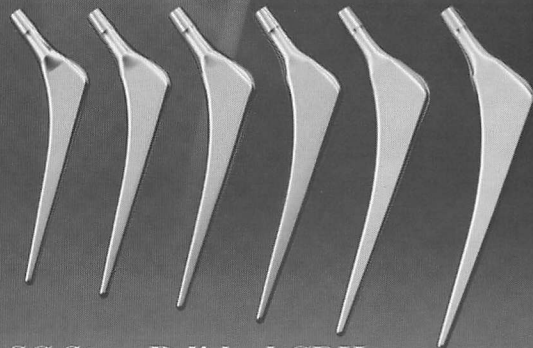
近位からの荷重伝達とセメント内応力不均一の低減を目的とした Curved Triple Taper デザインの採用により、Stress Shielding の低減が期待できます。

# SC Hip System

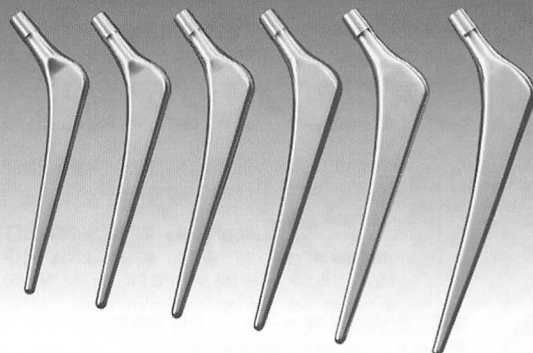
## The Shape of Internal Curve

- 2種類の内側カーブ・デザインにより、標準的な髓腔形態に加えて、近位内側が急峻な髓腔形態への適合性向上を図ることができます。
- プロポーションなサイズ・バリエーションを有しています。

### SC Stem Polished STD



### SC Stem Polished CDH



K-MAX SC HIPシステム [医療機器承認番号:21600BZZ00345000]

## 日本メディカルマテリアル株式会社

大阪市淀川区宮原3丁目3-31 (上村ニッセイビル9F) 〒532-0003

<http://www.jmmc.jp/>

東京支社 東京都新宿区西新宿2丁目4-1 (新宿NSビル10F) 〒163-0810

Tel:03-5339-3645 Fax:03-3343-3097

札幌営業所 Tel:011-280-6020 Fax:011-281-6525

東北営業所 Tel:022-216-5176 Fax:022-216-7116

大宮営業所 Tel:048-640-7779 Fax:048-641-5828

名古屋営業所 Tel:052-930-1481 Fax:052-938-1377

京都営業所 Tel:075-353-4322 Fax:075-343-3118

大阪営業所 Tel:06-6350-1017 Fax:06-6350-8157

神戸営業所 Tel:078-230-2531 Fax:078-230-2536

岡山営業所 Tel:086-803-3620 Fax:086-225-2289

広島営業所 Tel:082-212-1003 Fax:082-211-3008

九州営業所 Tel:092-452-8140 Fax:092-452-8177



<http://kansetsu-itai.com/>

# 「腰痛症」にも「関節リウマチにおける関節局所の鎮痛」にも有効

(※筋・筋膜性腰痛症、変形性脊椎症、椎間板症、腰椎捻挫)



●すぐれた有効性と深部への浸透性で、医療用NSAIDs貼付剤で初めて「腰痛症」\*「関節リウマチにおける関節局所の鎮痛」の効能を取得

\*筋・筋膜性腰痛症、変形性脊椎症、椎間板症、腰椎捻挫

●ケトプロフェンを含有する持続性貼付剤

●適度な伸縮性と粘着性により、可動部にもびったりフィット

●1日1回の貼付ですぐれた臨床効果

●副作用

○腰痛症、変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎  
総症例1,156例中副作用が報告されたのは57例(4.93%)であり、発現した副作用は、発疹11件、発赤9件、痒痒感18件、刺激感5件等の接触皮膚炎54件(4.67%)、貼付部の膨疹、動悸、顔面及び手の浮腫各1件(0.09%)などであった。(承認時)

○関節リウマチ

総症例525例中副作用が報告されたのは45例(8.57%)であり、発現した副作用は、接触性皮膚炎17件、適用部位痒痒感12件、適用部位紅斑6件、適用部位発疹6件、適用部位皮膚炎3件などであった。(効能追加承認時)

ほかに医師などの自発的報告により、ショック、アナフィラキシー様症状、喘息発作の誘発(アスピリン喘息)、光線過敏症の発現が報告されている。

●重大な副作用として、ショック、アナフィラキシー様症状、喘息発作の誘発(アスピリン喘息)、接触皮膚炎、光線過敏症がある。



経皮鎮痛消炎剤 ケトプロフェン 2%

[薬価基準収載]

**モーラステープ® 20mg**

経皮鎮痛消炎剤 ケトプロフェン 2%

[薬価基準収載]

**モーラステープL® 40mg**

【禁忌】(次の患者には使用しないこと)

- 1) 本剤又は本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者  
(「重要な基本的注意」の項(1)参照)
- 2) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者[喘息発作を誘発するおそれがある。]
- 3) チアプロフェン酸、スプロフェン、フェノフィブラート並びにオキシベンゾン及びオクトクリレンを含有する製品(サンスクリーン、香水等)に対して過敏症の既往歴のある患者[これらの成分に対して過敏症の既往歴のある患者では、本剤に対しても過敏症を示すおそれがある。]
- 4) 光線過敏症の既往歴のある患者[光線過敏症を誘発するおそれがある。]

【効能・効果】

○下記疾患の慢性症状(血行障害、筋痙攣、筋拘縮)を伴う場合の鎮痛・消炎  
腰痛症(筋・筋膜性腰痛症、変形性脊椎症、椎間板症、腰椎捻挫)、変形性関節症、肩関節

周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎(テニス肘等)

○関節リウマチにおける関節局所の鎮痛

【効能・効果に関連する使用上の注意】

- 1) 腰痛症、変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎に本剤を使用する場合、局所熱感、腫脹等を伴う急性期には有効性が確認されていないので使用しないこと。
- 2) 本剤の使用により重篤な接触皮膚炎、光線過敏症が発現することがあり、中には重度の全身性発疹に進展する例が報告されているので、疾病の治療上の必要性を十分に検討の上、治療上の有益性が危険性を上回る場合にのみ使用すること。

【用法・用量】

1日1回患部に貼付する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に使用すること)

- (1) 気管支喘息のある患者[アスピリン喘息患者が潜在しているおそれがある。](「重大な副作用」の項(2)参照)
- (2) 妊娠後期の女性(「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)

2. 重要な基本的注意

- (1) 本剤又は本剤の成分により過敏症(紅斑、発疹・発赤、腫脹、刺激感、痒痒等を含む)を発現したことがある患者には使用しないこと。
- (2) 接触皮膚炎又は光線過敏症を発現することがあり、中には重度の全身性発疹に至った症例も報告されているので、使用前に患者に対し次の指導を十分に行うこと。(「重大な副作用」の項(3)(4)参照)
  - 1) 紫外線曝露の有無にかかわらず、接触皮膚炎を発現することがあるので、発疹・発赤、痒痒感、刺激感等の皮膚症状が認められた場合には、直ちに使用を中止し、患部を遮光し、受診すること。なお、使用後数日を経過して発現する場合があるため、同様に注意すること。
  - 2) 光線過敏症を発現することがあるので、使用中は天候にかかわらず、戸外の活動を避けるとともに、日常の外出時も、本剤貼付部を衣服、サポーター等で遮光すること。なお、白い生地や薄手の服は紫外線を透過させるおそれがあるので、紫外線を透過させにくい色物の衣服などを着用すること。また、使用後数日から数か月を経過して発現することもあるので、使用後も当分の間、同様に注意すること。異常が認められた場合には直ちに本剤の使用を中止し、患部を遮光し、適切な処置を行うこと。
- (3) 皮膚の感染症を不顕性化するおそれがあるので、感染を伴う炎症に対して用いる場合には適切な抗菌剤又は抗真菌剤を併用し、観察を十分に行い慎重に投与すること。
- (4) 腰痛症、変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎の慢性症状(血行障害、筋痙攣、筋拘縮)を伴う場合の鎮痛・消炎に本剤を使用する場合は、以下の点に注意すること。
  - 1) 本剤による治療は対症療法であるので、症状に応じて薬物療法以外の療法も考慮すること。また、投与が長期にわたる場合には患者の状態を十分に観察し、副作用の発現に留意すること。
  - 2) 関節リウマチにおける関節局所の鎮痛に本剤を使用する場合は、以下の点に注意すること。
    - 1) 関節リウマチに対する本剤による治療は対症療法であるので、抗リウマチ薬等による適切な治療が行われ、なお関節に痛みの残る患者のみに使用すること。
    - 2) 関節痛の状態を観察しながら使用し、長期にわたり漫然と連用しないこと。また、必要最小限の枚数にとどめること。

3. 相互作用

【併用注意】(併用に注意すること)

メトレキサート

4. 副作用

(1) 重大な副作用

- 1) ショック(頻度不明)、アナフィラキシー様症状(0.1%未満)  
ショック、アナフィラキシー様症状(蕁麻疹、呼吸困難、顔面浮腫等)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) 喘息発作の誘発(アスピリン喘息)(0.1%未満)  
喘息発作を誘発することがあるので、乾性ラ音、喘鳴、呼吸困難感等の初期症状が発現した場合は使用を中止すること。気管支喘息患者の中には約10%のアスピリン喘息患者が潜在していると考えられているので留意すること。なお、本剤による喘息発作の誘発は、貼付後数時間で発現している。(【禁忌】の項(2)参照)
- 3) 接触皮膚炎(5%未満、重篤例は頻度不明)  
本剤貼付部に発現した痒痒感、刺激感、紅斑、発疹・発赤等が悪化し、腫脹、浮腫、水疱・びらん等の重度の皮膚炎症状や色素沈着、色素脱失が発現し、さらに全身に皮膚炎症状が拡大し重篤化することがあるので、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、患部を遮光し、適切な処置を行うこと。なお、使用後数日を経過してから発現することもある。
- 4) 光線過敏症(頻度不明)  
本剤の貼付部を紫外線に曝露することにより、強い痒痒を伴う紅斑、発疹、刺激感、腫脹、浮腫、水疱・びらん等の重度の皮膚炎症状や色素沈着、色素脱失が発現し、さらに全身に皮膚炎症状が拡大し重篤化することがあるので、異常が認められた場合には直ちに使用を中止し、患部を遮光し、適切な処置を行うこと。なお、使用後数日から数か月を経過してから発現することもある。

●その他の使用上の注意については添付文書をご参照下さい。

●「禁忌を含む使用上の注意」の改訂に十分ご留意ください。

2010年11月作成

製造販売元



久光製薬株式会社 〒841-0017 鳥栖市田代大宮町408

資料請求先：学術部 〒100-6221 東京都千代田区丸の内1-11-1

**+** TRIPLE TAPERED  
POLISHED SURFACE

# Trilliance, Brilliant



**NEW**

INTRODUCING  
**TRILLIANCE® STEM**

- Polished Surface
- Triple Taper design
- Line to Line Preparation
- Offset Length Selection

**Aesculap Orthopaedics**



**B | BRAUN**  
SHARING EXPERTISE

製造販売元

ビー・ブラウンエスクラップ株式会社  
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-38-16

Homepage: [www.bbaj.jp](http://www.bbaj.jp)

カスタマーサービスセンター: 0120(16)1743 fax 0120(62)1108

札幌営業所: 011(726)3537 fax 011(726)8477 仙台営業所: 022(224)0780 fax 022(224)0782 東京営業所: 03(3814)2524 fax 03(3814)6110  
名古屋営業所: 052(232)7371 fax 052(232)7372 大阪営業所: 06(6223)0770 fax 06(6223)0773 福岡営業所: 092(431)6680 fax 092(431)6681

掲載製品の薬事取得番号及び販売名は、製品付属の添付文書をご参照下さい。



listen. respond. deliver.

メドトロニックソファモアダネックは、脊椎疾患用医療機器と手術支援用ナビゲーションシステムを提供しています。

当社の製品は、優れた技術力、迅速な対応やサービスで多くの専門ドクターから高い信頼を得ています。

私たちは、患者さん一人一人に合った製品を提供し、多様化するドクターのニーズに応じていきます。



製造販売業者 許可番号:27B1X00036

メドトロニックソファモアダネック 株式会社 <http://www.sofamordanek.co.jp>

本社 〒553-0003 大阪市福島区福島7-20-1 KM西梅田ビル3階 TEL.06-6453-3444(代) FAX.06-6453-3464

札幌	TEL.011-746-2644(代)	FAX.011-746-5123	名古屋	TEL.052-212-3636(代)	FAX.052-212-3656
仙台	TEL.022-723-0870(代)	FAX.022-723-0871	北越	TEL.076-238-5687(代)	FAX.076-238-5713
東京	TEL.03-5148-8621(代)	FAX.03-5148-8623	大阪	TEL.06-6453-3488(代)	FAX.06-6453-3490
埼玉	TEL.03-5148-8621(代)	FAX.03-5148-8623	京都	TEL.075-256-8316(代)	FAX.075-256-8317
千葉	TEL.03-5148-8621(代)	FAX.03-5148-8623	岡山	TEL.086-224-9688(代)	FAX.086-235-8460
横浜	TEL.045-222-3721(代)	FAX.045-681-7366	福岡	TEL.092-418-1800(代)	FAX.092-418-1811

MEDTRONIC  
Spinal and Biologics Business  
Worldwide Headquarters  
2600 Sofamor Danek Drive  
Memphis, TN 38132  
1800 Pyramid Place  
Memphis, TN 38132  
(901) 396-3133  
(800) 876-3133  
Customer Service: (800) 933-2635  
[www.sofamordanek.com](http://www.sofamordanek.com)

IRN12905



# WRIGHT.

Innovation in Orthopedics



製造販売元

# WRIGHT.

## ライト・メディカル・ジャパン株式会社

東京本社 TEL: 03-6230-1451 / FAX: 03-6230-1472  
東京営業所 TEL: 03-5753-3505 / FAX: 03-5753-3540  
大阪営業所 TEL: 06-6121-7240 / FAX: 06-6121-7249  
福岡営業所 TEL: 092-437-5315 / FAX: 092-437-5317  
カスタマーサービス TEL: 03-5767-8132 / FAX: 03-5767-8133

医療機器承認番号 21900BZY00080000  
医療機器承認番号 21800BZY10191000  
医療機器承認番号 21400BZY00387000  
医療機器承認番号 21700BZY00104000  
医療機器承認番号 21900BZY00019000  
医療機器承認番号 21800BZY10100000  
医療機器承認番号 21000BZY00055000  
医療機器承認番号 20900BZY00012000  
医療機器承認番号 20700BZY00038000  
製造販売業許可番号 13B1X00117

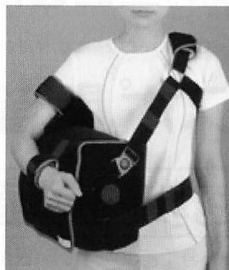
# REHABITECH

REHABILITATE-SYSTEM TECHNOLOGIC CORPORATION

患者様・先生方のご要望にお答えする肩外転装具

# Kenbag

REHABITECH



- 80° ~ 30° で外転角を任意に調節、安定した保持が可能
- 外旋位の保持
- 専用枕で夜間痛を軽減
- 左右兼用・Free サイズ設計

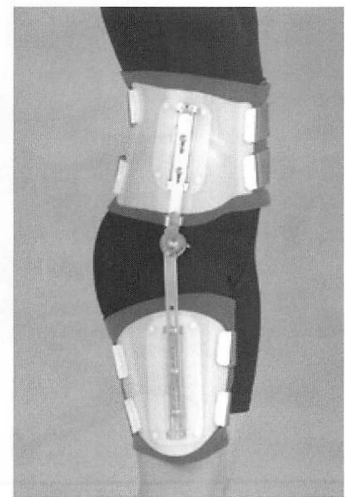
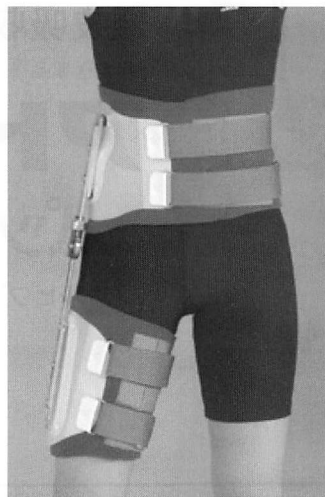
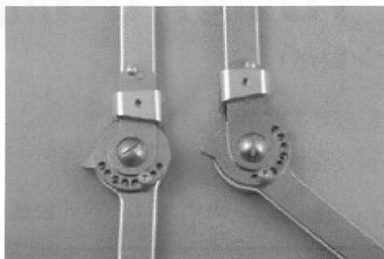
必要とされるひとに  
必要とされるものを  
To be ONLY-ONE... 必要なときに...

*Provide really indispensable  
products in a timely manner,  
for those whom are really necessity*

## ライトヒップブレース

股関節手術後の固定、歩行・移動時のサポートにご使用いただけるレディーメイドの股関節装具です。任意の角度で屈曲・伸展制限ができる股関節ダイヤルロック継手を使用しています。

(継手単体での販売も致しております。)



品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001認証取得企業

開発  
製造

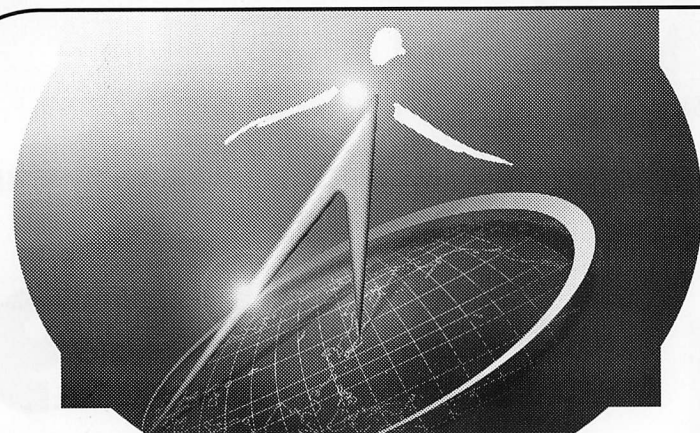
**株式会社 洛北義肢**

京都市北区大北山原谷乾町22-16 TEL.075-462-0195 FAX.075-463-2140

販売

**S サカモト有限公司**

京都市北区大北山原谷乾町22-16 TEL.075-464-0034 FAX.075-464-0044  
e-mail yusakamoto@raku-hokugishi.co.jp



ARTZ<sup>®</sup>  
ARTZ Dispo<sup>®</sup>

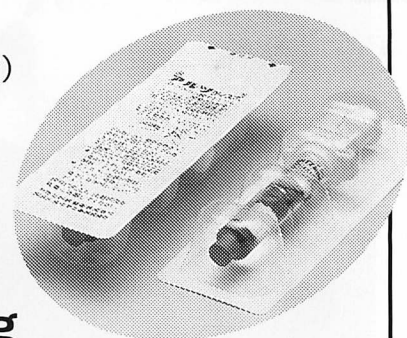
関節機能改善剤 (ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液)

指定医薬品 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

**アルツ<sup>®</sup> 関節注25mg**

指定医薬品 処方せん医薬品 注意—医師等の処方せんにより使用すること

**アルツ<sup>®</sup> ディスポ<sup>®</sup> 関節注25mg**



**ブリストア<sup>®</sup> 包装内滅菌済**

特許登録—日本国特許第3831505号；第3845110号(医療用滅菌包装における滅菌方法)

(製造販売元) 生化学工業株式会社  
東京都千代田区丸の内1丁目6-1



ADOFEED<sup>®</sup>



経皮吸収型鎮痛消炎貼付剤

指定医薬品

**アドフィード<sup>®</sup>**  
**パップ40mg/80mg**

(フルルビプロフェン製剤)

(製造販売元) リードケミカル株式会社  
富山県富山市日俣77-3

- 各製品の効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等の詳細は、製品添付文書をご参照ください。
- 各製品共、薬価基準収載



科研製薬株式会社

[発売元・資料請求先] 〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8

07L4  
(2008年9月作成)

旭化成ファーマ

骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

# エルシトニン®注20S エルシトニン®注20S ディスポ

Elcitonin® Inj. 20S Elcitonin® Inj. 20S Dispo

劇薬、処方せん医薬品\*

(エルカトニン注射液)

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等、  
詳細については製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元(資料請求先)

旭化成ファーマ株式会社

医薬学術部：〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地

URL <http://www.asahikasei-pharma.co.jp>

H21.07



Quality of Life



非ステロイド性消炎・鎮痛剤 (COX-2 選択的阻害剤) 薬価基準収載

CELECOX

# セレコックス錠 100mg 200mg

劇薬、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

セレコキシブ錠

●「効能・効果」「用法・用量」「警告、禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 **アステラス製薬株式会社**  
東京都板橋区進根3-17-1

販売提携 **ファイザー株式会社**  
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7  
資料請求先：製品情報センター

09/11作成 A41/2.B.02

【資料請求先】本社/東京都中央区日本橋本町2-3-11

CELECOX



# Protection & Healing

しっかり守って、きれいに治す。

胃炎・胃潰瘍治療剤

薬価基準収載

日本薬局方 レバミピド錠

## ムコスタ®錠100mg

Mucosta® tablets 100mg

胃炎・胃潰瘍治療剤

薬価基準収載

レバミピド顆粒

## ムコスタ®顆粒20%

Mucosta® granules 20%

**〔禁忌(次の患者には投与しないこと)〕**  
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

〔効能・効果〕及び〔用法・用量〕

〔効能・効果〕	〔用法・用量〕
胃潰瘍	通常、成人には1回レバミピドとして100mg(ムコスタ錠100mg：1錠、ムコスタ顆粒20%：0.5g)を1日3回、朝、夕及び就寝前に経口投与する。
下記疾患の胃粘膜病変(びらん、出血、発赤、浮腫)の改善 急性胃炎、慢性胃炎の急性増悪期	通常、成人には1回レバミピドとして100mg(ムコスタ錠100mg：1錠、ムコスタ顆粒20%：0.5g)を1日3回経口投与する。

〔使用上の注意〕—抜粋—

重大な副作用

1. ショック、アナフィラキシー様症状(頻度不明\*)：ショック、アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
2. 白血球減少(0.1%未満)、血小板減少(頻度不明\*)：白血球減少、血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
3. 肝機能障害(0.1%未満)、黄疸(頻度不明\*)：AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、ALPの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

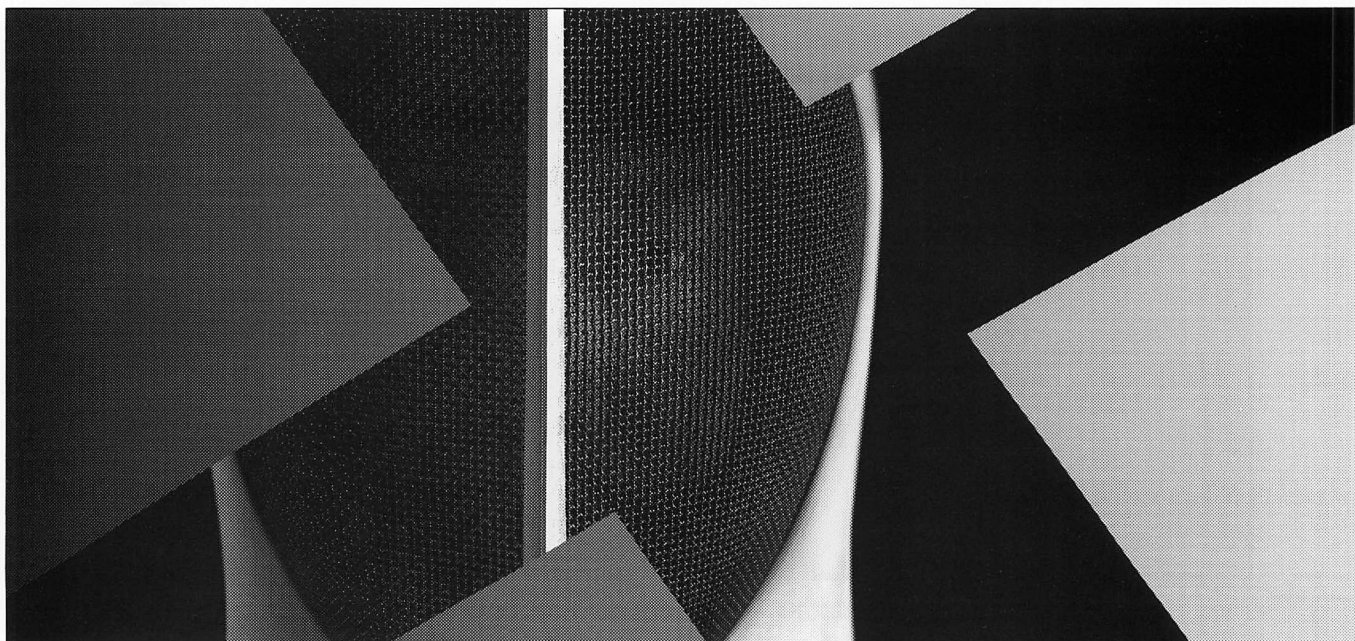
\*：自発報告において認められた副作用のため頻度不明。

◇その他の使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

製造販売元  
大塚製薬株式会社  
Otsuka 東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先  
大塚製薬株式会社  
信頼性保証本部 医薬情報センター  
〒108-8242 東京都港区港南2-16-4  
品川グランドセントラルタワー

〈10.05作成〉



カルバペネム系抗生物質製剤 ————— 処方せん医薬品 注1) 薬価基準収載

# フィニボックス®

点滴用0.25g  
キット点滴用0.25g

FINIBAX® (注射用ドリベネム水和物 略号：DRPM)  
注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

■〔効能・効果〕、〔用法・用量〕、〔禁忌〕、  
〔原則禁忌〕、〔使用上の注意〕等につ  
いては添付文書等をご参照下さい。

製造販売元【資料請求先】

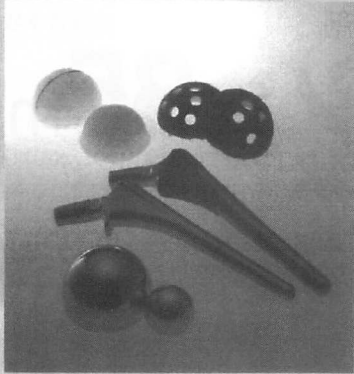
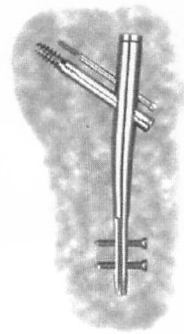
**シオノギ製薬**

大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045  
電話 0120-956-734 (医薬情報センター)  
<http://www.shionogi.co.jp/med/>

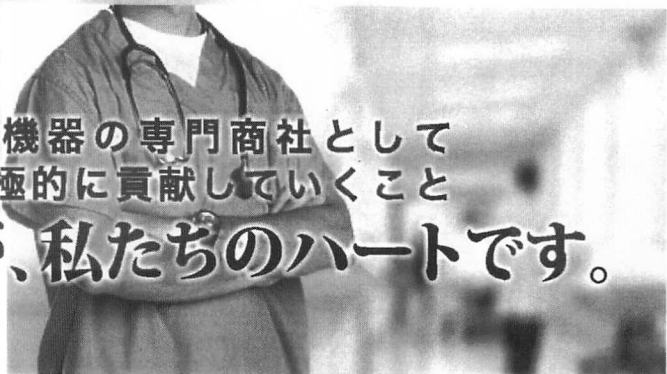
Ⓒ登録商標 2009年10月作成 A42



**健康と豊かさを担う責任**  
Partner in Healthcare



先進医療機器の専門商社として  
社会に積極的に貢献していくこと  
それが、私たちのハートです。



**CMI** Partner in Healthcare  
センチュリーメディカル株式会社  
<http://www.cmi.co.jp/>

本 社  
〒141-8588 東京都品川区大崎 1-11-2 TEL (03)3491-1681 FAX (03)3491-2788  
大阪支店  
〒541-0053 大阪市中央区本町 1-7-6 TEL (06)6263-5815 FAX (06)6263-3756

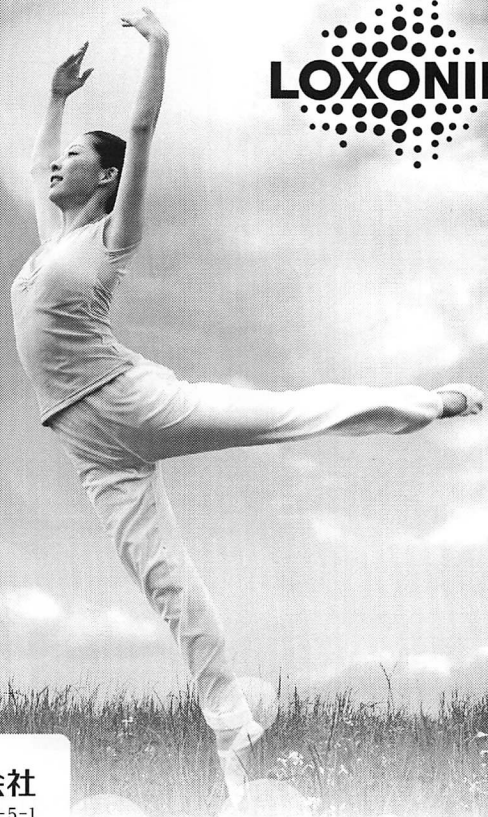


経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤 薬価基準収載

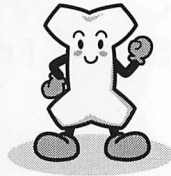
**ロキソニン<sup>®</sup>**  
ゲル1%

ロキソプロフェンナトリウム水和物ゲル

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については製品添付文書をご参照ください。



製造販売元(資料請求先)  
**第一三共株式会社**  
東京都中央区日本橋本町3-5-1



骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

# ボナロン®錠 35mg

Bonalon® Tablet 35mg <アレンドロン酸ナトリウム水和物錠>

劇薬・処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等  
については、添付文書をご参照ください。

製造販売元

**TEIJIN** 帝人ファーマ株式会社

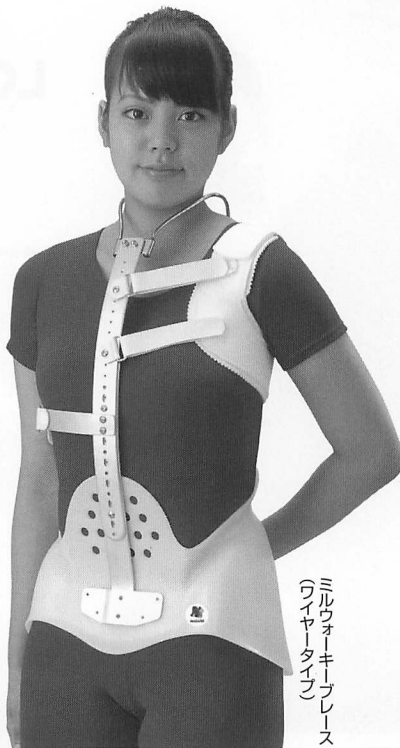
資料請求先：学術情報部

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

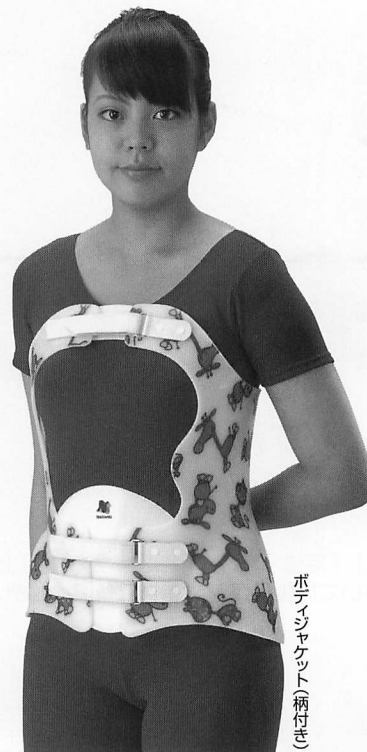
商標 #ナロン/Bonalon® is the registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, NJ, USA.

2009年7月作成  
BNW095 (KK) 0907改1

## 側彎矯正装具



ミルウォォーキーブレース  
ライヤータイプ



ボディースャケット(納付き)

適合のプロ◎あなたの身体に一番あったものづくりを目指します。



有限会社 永野義肢

〒570-0043 大阪府守口市南寺方東通5丁目23番8号  
TEL 06-6993-7860 FAX 06-6993-7887  
<http://www.naganogishi.jp> info@naganogishi.jp



stryker®

Joint Replacements

# Triathlon® Total Knee System

トライアスロン人工膝関節システム



- Improved Motion
- Better Fit
- Reduced Wear

日本ストライカー株式会社

112-0004 東京都文京区後楽 2-6-1 tel: 03-6894-0000

[www.stryker.co.jp](http://www.stryker.co.jp)

・医療従事者向けサイト-Stryker Medical Professional Site  
[www.stryker.co.jp/medical.html](http://www.stryker.co.jp/medical.html)

製造販売業者

日本ストライカー株式会社

550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀2-1-1

医療機器承認番号

販売名

21900BZY00042000

トライアスロン人工膝関節システム

※本製品に関するお問い合わせは弊社までお願い致します。

Pfizer



骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

## ビビアント®錠20mg

Viviant® Tablets 20mg

バセドキシフェン酢酸塩錠

処方せん医薬品：注意—医師等の処方せんにより使用すること

製造販売

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7 資料請求先：製品情報センター

- 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

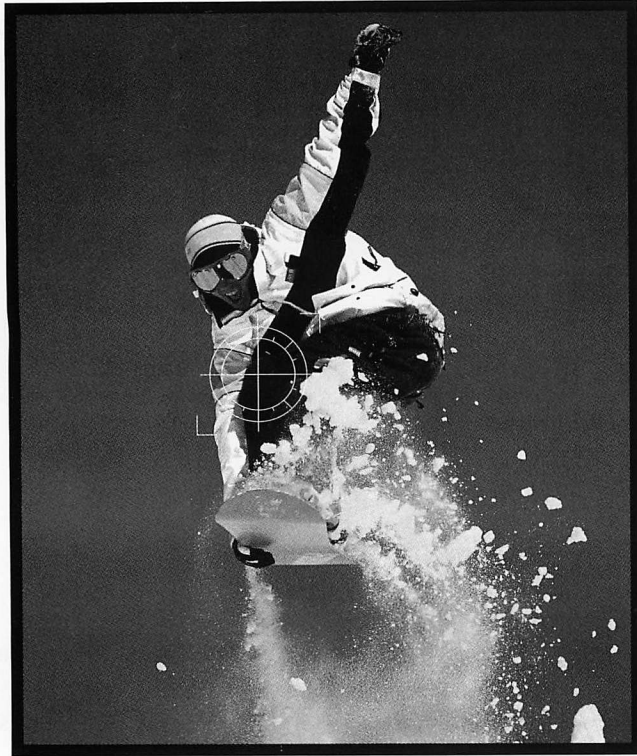
新発売

藤原真理

Mari Fujiwara

藤原真理 / 日本音楽コンクール・チェロ部門第1位および大賞、  
チャイコフスキー国際コンクール第2位など多くの受賞歴をもつ。  
現在、日本を代表するチェリストとして国内外で活躍している。

2010年12月作成



経皮鎮痛消炎剤

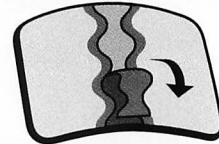
薬価基準収載

**モ-ラステプ<sup>®</sup> 20mg**

**モ-ラステプ<sup>®</sup> L 40mg**

【ケトプロフェン2%】

はりやすいからこのカタチ。



3ピース中央剥離方式

○効能・効果,用法・用量,禁忌を含む使用上の注意等については,添付文書をご参照ください。

資料請求先  **祐徳薬品工業株式会社** 学術研修部  
福岡市博多区冷泉町5番32号 オーシャン博多ビル 8F  
TEL.092-271-7702 FAX.092-271-6405

